

多賀城市市民活動サポートセンター
平成 28 年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

平成 29 年 3 月 31 日

平成28年度運營業務成果報告書 目次

平成28年度の主なトピック・出来事		1
I 平成28年度運營業務報告		
1 方針		
1 平成26～28年度施設運営方針		5
2 平成28年度施設運営方針・実施事業一覧		6
3 平成28年度事業の目的・背景・対象		8
2 平成28年度成果・課題		9
3 運営状況		
1 利用状況集計		
1 推移		15
2 総利用数・利用団体の属性・利用団体の活動分野		17
2 相談対応実績		20
3 その他		
1 団体情報ファイル		29
2 ウェブサイト・ブログ・ツイッターの運用		32
3 共同事務室入居団体インキュベート相談/ワークスペース運用		33
4 フリースペース利用促進プロジェクト		35
5 Wi-Fiの利用状況		39
4 事業実施状況		
1 参加・育成事業		
1 雑貨市		41
2 NPOいちから塾		44
3 地域人材育成		47
2 自治活動支援事業		
1 地域づくり実践塾		52
3 地域連携事業		
1 地域づくり基礎調査		62
2 月刊フリーペーパー「tag」発行		70
4 市職員研修事業		
1 市職員研修		77
5 その他事業		
1 たがさぼ文庫の運用		80
2 NPOの絵本展		81
3 GAMA ROCK FES出展		84
4 多賀城市広域連携事業 高橋地区を盛り上げる会のサポート		87
II 平成29～31年度施設運営方針		
1 平成29～31年度施設運営方針		91
2 平成29～31年度ロードマップ(案)		93
III 添付資料		

平成 28 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点施設として、N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等による協働の地域づくりをサポートし、8 年が経過した。

平成 28 年度は、T S C が市民の出会いの場となり、刺激し合ったり協力し合ったりすることで新たな活動が生まれている。また、市民が多く集まるイベントや企業、自治会・町内会のフィールドに出向くことで、これまで以上に各主体との接点づくりに力を入れた。

ここで平成 28 年度の T S C を振り返る 4 つのトピックを以下に挙げる。

1. T S C の講座、新たな活動が生まれるきっかけとなる

N P O いちから塾、地域人材育成、地域づくり実践塾「TAGAJ0 Future Labo」の受講者から 5 つの活動・テーマコミュニティが生まれた。T S C の講座は、同じテーマに関心のある方同士が出会い刺激し合う場、想いを整理して形にする場となっている。

2. 継続的なサポートと情報共有 自治会・町内会の活動がさらに活発になる

平成 26・27 年から引き続き市の西部に位置する高橋 4 地区連携による地域づくりを進めるための話し合いに参加した。3 年間話し合いをサポートすることで、住民が主体的に地域づくりに関わるプロセスをつくることができた。また「地域づくり基礎調査」では、4 町内会に対し、地区の特徴や取り組みの状況、課題等を直接伺い、さらに地域づくり新聞の発行、情報交換会の開催を通して地区内外に事例を発信することができた。こうした中で各地区と T S C の関係づくりを進めることができた。

3. 外へ飛び出す T S C もっと楽しく N P O を知ってもらう

T S C や市民活動と関わりがない層へアプローチするには、T S C 以外の場にも出ていく必要がある。今年度は、N P O が制作に携わる絵本を集めた「N P O の絵本展」を市内外の子ども・絵本関連のイベントで 5 回実施した。また、震災直後から塩釜市で実施されている「GAMA ROCK FES」にて他団体とともにワークショップブースを出展した。外部イベントへの参加を通して多くの市民に N P O や T S C のことを知ってもらった。

4. 地域×企業 T S C が懸け橋となる

地域づくりに取り組む団体と支援者をつなぐ目的もある雑貨市をきっかけに 10 社の企業訪問を行った。実際に雑貨市や TAGAJ0 Future Labo 発表会にも参加してもらった他、地域イベントへの参加、地域誌での福祉施設の紹介、福祉雑貨の活用といった事例が生まれた。また、企業の懇親会や講演会の場に呼んでいただく、T S C 事業の広報に協力していただくといった関係を築くこともできた。

平成 28 年度の主な出来事

平成 28 年

4 月

- 12 日 掲載 河北ウィークリー別冊「仙台で働きたい！」
- 25 日 事業 出前いちから塾（団体）

5 月

- 7 日 鶴ヶ谷児童館こどもまつり N P O 絵本展出展
- ～7 日 事務用ブース新規入居団体募集
- 19 日 東北学院大学工学部新入生ガイダンスにて T S C 紹介

6 月

- 14 日 出演 ベイウエーブ「まちなびけーしょん」
- 21 日 高橋地区懇談会ふりかえり
- 25 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo」説明会
- 26 日 高橋地区サンデーモーニングカフェ参加

7 月

- 9 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」
- 15 日 事業 第 1 回 N P O いちから塾
- 8 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo」説明会
- 16 日 事業 第 1 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 21 日 第 1 回高橋地区懇談会

8 月

- 4 日 出前絵本展@多賀城小学校学童保育
- ～13 日 事務用ブース新規入居団体募集
- 20 日 事業 「TAGAJ0 Future Labo」視察
- 23 日 地域コミュニティ課へのインターン受入
- 24 日 消防訓練
- 27 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」アフターフォロー
- 24 日 第 2 回高橋地区懇談会
- 26 日 高橋地区サンデーモーニングカフェ参加

9 月

- 5 日 事業 地域づくり基礎調査 高橋東二区
- 8 日 視察 滝沢市地域づくり推進課 受入
- 12 日 高橋地区第 1 回実行委員会
- 17 日 事業 第 2 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 24 日 GAMA ROCK アートブース出展
- 25 日 事業 雑貨市出店団体向け事前説明会・交流会
- 27 日 事業 雑貨市出店団体向け事前説明会・交流会

10 月

- 6～16 日 出前絵本展@シオーモ絵本まつり
- 11 日 高橋地区第 2 回実行委員会
- 15 日 事業 第 3 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 20 日 視察 岩手県花巻市太田振興センター 受入
- 22 日 事業 地域人材育成第 2 回「ハッピーママサロン」
- 23 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」アフターフォロー
- 29 日 事業 第 2 回 N P O いちから塾

11 月

- 1 日～ 施設予約システム帳票出力開始
- 5 日 事業 地域づくり基礎調査 東田中南区
- 8 日 事業 出前 N P O いちから塾（多賀城高校）
- 8 日 見学 多賀城市立第二中学校 受入
- 11 日 高橋地区第 3 回実行委員会
- 12 日 事業 多賀城ソーシャル・エッセンス講座「ソーシャル・セクター概論」
- 13 日 出前絵本展@しおがま絵本村
- 15 日 出演 ベイウエーブ「まちなびけーしょん」
- 25 日 事業 地域づくり基礎調査 東能ヶ田区
- 26 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」アフターフォロー

12 月

- 4 日 事業 「たがさぼのクリスマス雑貨市」
- 4 日 高橋地区世代間交流イベント
- 5 日 掲載 河北新報 たがさぼのクリスマス雑貨市
- 10 日 事業 地域づくり基礎調査 志引区
- 16 日～ 寄付月間キャンペーン展示
- 12 日 事務用ブースインキュベート相談会
- 17 日 事業 第 4 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 18 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」アフターフォロー
- 21 日 多賀城工場地帯連絡協議会市政懇談会にて T S C 紹介

平成 29 年

1 月

- ～ 7 日 事務用ブース新規入居団体募集
- 14 日 事業 地域人材育成第 2 回「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 21 日 事業 第 5 回「TAGAJ0 Future Labo」
- 21 日 東北学院大学講義「震災と復興」出席
- 25 日 消防訓練

2 月

- 4 日 事業 地域人材育成第 2 回「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 5 日 事業 NPOいちから塾 出前いちから塾 多賀城将棋ラボ
- 11 日 事業 多賀城ソーシャル・エッセンス講座「惹きつける！チラシデザイン講座」
- 16 日～ 「tag」創刊 50 号メモリアル展示会（～3 月 14 日） T S C
- 19 日 事業 地域づくり基礎調査「あつまれ！地区の知恵袋 町内会・自治会の情報交換会」
- 21 日 事業 NPOいちから塾 出前いちから塾 多賀城市保健福祉部社会福祉課
- 25 日 掲載 河北新報 「tag」創刊 50 号メモリアル展示会
- 25 日 事業 地域人材育成第 3 回「55 歳からのセカンドライフ講座」
- 26 日 高橋地区サンデーモーニングカフェ参加
- 26 日 事業 地域人材育成第 1 回「ようこそ！たがじょうカフェ」アフターフォロー
- 28 日 多賀城市市民活動サポートセンター運営業務評価委員会

3 月

- 2～21 日 利用者アンケート実施
- 6 日 掲載 河北新報 「tag」創刊 50 号メモリアル展示会
- 13 日 事業 市職員研修
- 16 日 事務用ブースインキュベート相談会
- 16 日 視察 柴田町まちづくり政策課 受入
- 18 日 事務用ブースインキュベート相談会
- 25 日 事業 地域人材育成第 2 回「ハッピーママサロン」アフターフォロー
- 26 日 丘の上FM 公開収録
- 27 日 「tag」創刊 50 号メモリアル展示会（～4 月 7 日） 多賀城市役所

I

平成 28 年度運營業務報告

I -1 方針

I-1-1 平成26～28年度施設運営方針

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

あらゆる地域資源を活かした市民による市民のためのまち

市民自らが地域にとって必要な価値を、市内外の地域資源を活かしながら他セクターとの協働でつくりだす。

平成 28 年度の T S C の姿

市民の主体性が育まれる場所として、市民が自分たちの手で地域の魅力を高めたり、課題解決に取り組むための、地域資源が集まり新たなつながりが生まれる地域づくりの拠点となる。

T S C 運営の前提

当館利用者のニーズに合わせた柔軟な施設運営を行い必要な支援サービスを開発する。既存の N P O、自治会・町内会、生涯学習団体への継続的な支援や企業の C S R 支援を行う。市民活動に関する最新の情報を収集し発信し続ける。N P O、自治会・町内会、企業、行政、公共施設、周辺市町などと連携し包括的な地域づくりの一端を担う。市民の力を信じ、市民とともに地域に新たな価値をもたらす。スタッフの支援能力の向上に努める。

平成 26～28 年度で T S C 運営において特に力を入れること

①地域づくりに関わる人材の発掘と育成

市民活動の既活動者、潜在的活動者、無関心層などあらゆる層に向けて地域づくりに関する働きかけを行い次世代のリーダーや地域のコーディネーターを発掘・育成する。また、N P O、自治会・町内会、生涯学習団体など地域づくりに関わる団体へのさらなる力づけを行う。合わせて、地域づくりに関わる人・団体へ市内外の価値ある情報をさまざまな広報ツールを活用して届ける。

②地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのネットワークの構築

地域が抱える課題を可視化し、地域で活動する人材や団体が持つ資源を共有・交換し地域連携が促進される仕組み（ネットワーク）をつくり、課題解決や新たな価値の創造につなげる。また、公共施設や関連機関とのネットワークを強化し、包括的な地域づくりの体制をつくる。

I-1-2 平成 28 年度施設運営方針

平成 28 年度事業立案の考え方

平成 26～28 年度多賀城市市民活動サポートセンター施設運営方針に以下の 2 つを掲げ、事業等を実施してきた。

○地域づくりに関わる人材の発掘と育成

○地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのネットワークの構築

これまで、市民活動を知るきっかけとなるプログラムを用意し、無関心層・潜在的活動者の発掘に力を入れてきた。事業の中から継続的な取り組みが生まれたり、自分の思いを形にするステップに進む参加者が出てきたりと、新たな活動の芽が活発に出始めている。ここ数年の傾向として、団体として活動する場合もあるが、個人として活動する場合も増えており、キーパーソン同士のつながりによって新たな活動が生み出される状況もできつつある。

一方で、介護保険制度改正等にみられるように、地域のことは地域で支える担い手の育成が求められている。このような中で、芽吹き始めた新たな活動の芽となる動きが、地域課題を解決したり、地域の魅力を高める力強いものになっていくためには、課題を発見し自ら行動する市民の育成がさらに必要になっていくと考えている。

平成 28 年 3 月に開館した新図書館では、市民の成長につながるさまざまなイベントが年間 400 本予定されており多くの来館者を見込んでいることから、趣味や特技など興味・関心を切り口とした市民同士の交流が生まれ市民文化が育まれる中から、社会や地域につながっていくことが予想される。

そこで、平成 28 年度は、想いを地域の課題につなげ、課題解決型の活動を生み出すよう「地域課題の可視化・発信」をし、課題発見力をつけるアプローチを行いながら、「地域課題解決型活動の創出」に重点的に取り組んだ。

平成 28 年度施設運営方針

●地域課題解決型活動の創出

興味・関心から市民活動を知り関わるきっかけを提供するプログラムから、地域の課題解決型の活動につなげるプログラムに重点を置き、これまでの取り組みから芽生えた市民の思いや実践から、地域課題解決型の活動を創出していく。

●地域課題の可視化・発信

課題解決型の活動を創出するには課題の発見が欠かすことができない。顕在化しにくい地域課題をデータ等からわかりやすいカタチに変えて発信していくことによって、課題発見力を高めていく。

実施事業一覧 次のページに掲載

I-1-3 平成 28 年度事業の目的・背景・対象

(1) 参加育成事業

目的：無関心層や潜在的な活動者が新たな地域づくりの人材となるよう発掘・育成の機会を創出する。また、その中から新たな活動者を創出する。

背景：地域づくりの担い手の高齢化や不足が進んでいる一方で、介護保険制度改正等に見られるように、地域のことは地域で支える担い手の育成が求められている。

対象：無関心層・潜在的活動者

(2) 自治活動支援事業

目的：住民自治・市民自治を促進するために市民活動の実践者を輩出する、あるいは実践者・既存団体をエンパワメントし、地域づくりをけん引する人材や団体を育成する。

背景：想いを形にしたいという市民が出てきている。活動を続けていくための資金調達・体制づくりなどが脆弱な団体がある。

対象：潜在的活動者・既活動者

(3) 地域連携事業

目的：地域内の多様な資源をつなぎ直し、包括的な課題解決のネットワークを構築する。

背景：見えにくい地域課題があり、それを解決する活動が少ない。

対象：自治会・町内会、無関心層、潜在的活動者

(4) 市職員研修事業

目的：市民協働を正しく理解した上で、具体的な手法を学ぶことで市民協働を促進する。

背景：「多賀城市地域づくり基本指針」や「地域づくり支援制度」の導入に合わせて、協働による地域づくりを進めていくための市民との関わり方を実践し、地域と行政職員との信頼関係を深化させることが必要。

対象：入庁 10 年以下の多賀城市役所職員

I-2 平成 28 年度成果・課題

I-2 平成 28 年度成果・課題

＜各属性の状況＞

平成 26 年度から 3 年間の複数年業務委託契約の 3 年目となり、前年度で見てきた市民の想いの実現とキーパーソン同士のつながりによる新たな活動の創出に加えて、今年度は市民がより地域課題への気づきを得るという点に力を入れるとともに、セクターを超えて課題解決に向かうための基盤づくりに取り組んだ。

【市民活動団体】

平成 20 年の開館から 8 年が経過し、地域への想いを形にする個人や団体が年々増えている。最近では、団体としてだけでなく、個人で活動を起こす・起こしたい方からの相談や事業への参加も多い傾向が続いている。

前年度は N P O いちから塾や地域人材育成、地域づくり実践塾「TAGAJ0 Future Labo」といった T S C の事業の中で相談機能も活用しながら 5 つの活動やテーマコミュニティが立ち上がった。

同じ想いを持った方同志で協力や刺激し合っており、事業を通して構築されたネットワークが新たな活動の創出につながっている。

現段階では講座参加者同士の想いの共有に留まる活動も多く、課題解決型の活動の担い手となるよう、今後も継続して育成に取り組むとともに、地域課題の可視化も行っていく。

【自治会・町内会】

印刷機の利用が中心の地区と、相談や情報機能を組織運営上の課題解決に活かす地区と、T S C の活用や関わり方に幅がある。

前年度から引き続き、今年度も地域づくり基礎調査（4 地区）、多賀城市広域連携事業のモデル地区（1 地区）のサポートを通して自治会・町内会と関わってきた。その中で見えた各地区の取り組みを他地区にも発信し、地区間でノウハウの共有が行われた。

次年度以降は、各地区で見えてきた課題にスポットを当て、課題解決に必要な支援を行っていく。

【企業】

東日本大震災後は被災した企業も多く、本業の復旧・復興を優先することを考慮し、企業への積極的なアプローチを行っていなかった。

震災から 5 年が経過した平成 28 年度からは、地域づくりに取り組む団体と支援者をつなぐ目的もある雑貨市をきっかけに 10 社の訪問を行った。実際に雑貨市や TAGAJ0 Future Labo 発表会にも参加してもらった他、地域イベントへの参加、地域誌での福祉施設の紹介、福祉雑貨の活用といった事例が生まれた。

また、多賀城工場地帯連絡協議会市政懇談会において T S C の紹介の機会を得たり、商工会主催の賀詞交歓会、異業種交流会など企業の方が集まる場への参加など、関係づくりに積極的に取

り組んでいる。

次年度も継続して、企業との関係づくりを行い、地域課題の解決に取り組むパートナーとして連携していく。

【学校・学生】

若い世代へのアプローチが課題だったが、「学生の視点で多賀城のために何かしたい」という東北学院大学工学部生からの相談をきっかけに、学生団体の立ち上げ、活動先のマッチング等を4年に渡って継続的に対応を行っている。また、市内在住の高校生から「高校生の視点で多賀城のことを考えたい」という相談も来ており、相談対応を通して学生の地域づくりへの参画を進めている。

平成 27 年度から東北学院大学工学部 1 年生の就職ガイダンスの中で T S C の紹介の機会を得た。また、平成 28 年度後期に行われた「震災と復興」という講義において、地域課題を解決するための実践が課題で出された際の、地域情報の提供や活動者へのマッチングなどを行った。加えて、多賀城高校でボランティア教育プログラムに取り組む N P O への情報提供等支援を行っている。

このように学校や学生との関係づくりには取り組んでいるところであるが、次世代を担う若者へのアプローチにはさらに取り組む必要がある。

【行政】

商工観光課が進める観光戦略の会議への参加や、介護福祉課が進める多賀モリ会へのアドバイス、子育て支援被災地調整会議への市内で活動する団体のコーディネートを通して、個別課題に対する市民協働の実践に取り組んでいる。

事業の中では、市職員研修にて、えずこホールの水戸雅彦館長を講師として招き、市民とともに文化を創造していくことについて考えてもらった。また、社会福祉課に向けて出前 N P O いちから塾を開催し、N P O の基本や市民との関わり方について学んだ。

次年度以降は、より行政が市民とともに課題解決に取り組んでいくため、N P O と連携し実践的なプログラムに取り組む。

【生涯学習団体】

主に貸室を中心とした場の提供を行っており、受付等でコミュニケーションを図っている。

次年度以降は、地域課題解決のための資源として捉え、適宜取り組みにつないでいく。

＜方針に沿った成果・課題＞

（１）課題解決型活動の創出

【成果】

- NPOいちから塾、地域人材育成、地域づくり実践塾「TAGAJ0 Future Labo」を通して、想いを整理したり仲間と出会うことで５つの活動・テーマコミュニティが立ち上がった。

◎新規立ち上げ活動・テーマコミュニティ（５つ）

- ・小さなお花畑
- ・丘の上FM
- ・高崎こども食堂らっこ広場
- ・たがじょう転入組
- ・ママたちの情報交換会

- 同じ立場の人同士が出会い情報交換することで、課題が共有され、その課題を解決するための取り組みについて考えるようになり、課題解決型活動の創出につながりつつある。

【課題】

- 想いの整理や情報交換の中で出た意見を地域の課題とつなげ、課題解決の活動を創出するためのアプローチが必要である。
- 課題に対して多様な主体で取り組めるように、主体同士をさらにつなぐ必要がある。
- 立ち上がった活動が継続していけるよう組織基盤強化に対する支援が必要である。

（２）地域課題の可視化・発信

【成果】

- 地域づくり基礎調査でのヒアリングやtagの取材を通して、地域課題や解決のための取り組みを掘り起こすことができた。
- tagや地域づくり新聞、自治会・町内会の情報交換会を通して地域課題や解決のための取り組みを発信し、新たな取り組みにつながった。

【課題】

- 掘り起こされた課題の深堀りや分析が充分でなく、本当の課題がどこにあるのか把握しきれていない。
- 課題の性質に合わせて、多様な編集・発信の仕方を工夫し、市民へ届ける。

＜事業の成果・課題＞

目的ごとに「参加・育成事業」「自治活動支援事業」「地域連携事業」「市職員研修事業」の 4 つの大事業に分け、さらにその中に小事業を位置付けている。単体の事業での成果が見られたほか、「自治活動支援事業」の参加者が「参加育成事業」にも参加して知識を深めたり、つながりを広げ、事業を超えて生まれた成果も見えている。

（１）参加・育成事業

主に現役世代の無関心層や潜在的活動者を対象に、市民活動そのものや多様な関わり方を知るきっかけを提供した。「雑貨市」では買い物や体験を通して市民活動に出会う、「地域人材育成」ではテーマを設け同じ関心事や立場の方が集まって話す、「NPO いちから塾」ではNPOの基礎情報を学ぶ、といったように事業ごとに多様な入口を設け、市民活動・地域活動の新たな担い手の発掘・育成し、新たな活動者の創出をめざした。

【成果】

- 「雑貨市」では、のべ 795 人の来場があり、アンケート回答者の 4 割以上が新規来館者だったことから、普段市民活動との関わりがない方に対し、市内外の活動を知ってもらうきっかけとなった。また、企業 10 社を訪問し、企業とNPOの接点を作ることができた。
- 「地域人材育成」では、「転入者」「子育て」「セカンドライフ」をテーマに同じ立場の人が集まる場を開いた。当事者たちが集まることで、想いを共有したり、情報交換することができ、それぞれのテーマでコミュニティが生まれつつある。また、転入者に役立つマップの作製、子育てに関する情報交換会といった取り組みがはじまった。
- 「NPO いちから塾」では、定期講座を 2 回、出前講座を 4 回実施した。定期講座では、NPOの基礎を学ぶと同時に参加者の想いの実現の場にもなり新たな活動が生まれた。また、出前講座は「NPO」「高校生」「行政」にそれぞれ行っており、「NPO」には設立や運営相談、「高校生」には将来の選択肢の拡大、「行政」には市民協働の促進、といった主体によって違う成果が見られた。

【課題】

- 市民活動を知るという段階から、実際に活動をはじめる、活動を継続していくといった次のステップへ進む支援も必要となる。

（２）自治活動支援事業

活動の立ち上げ支援や市民活動団体、自治会・町内会等既存団体の組織基盤強化を図る。地域づくり実践塾「TAGAJ0 Future Labo」は想いの整理や活動者との出会いを通して、活動の創出をめざした。また、地域づくり実践塾「Social Essence 講座」では活動の創出に必要なノウハウを学ぶ機会をつくった。

【成果】

- 地域づくり実践塾「TAGAJ0 Future Labo」では 9 名の受講者が集まった。内 7 名の受講者がす

で活動している、あるいは今後活動をはじめるとの予定である。また、発表会で 6 名の受講者が想いを活動者・企業・行政等 19 名の聴講者に向けて発表したことで、新たな連携を生んだ。

- 地域づくり実践塾「Social Essence 講座」では「TAGAJ0 Future Labo」受講者を含む 27 名が参加。「市民活動の制度や知識」「チラシづくり」をテーマに活動に必要な知識やノウハウを提供することができた。

【課題】

- 想いを整理し活動にふみだそうとしている、あるいはすでに活動をはじめた受講者に対して、どのような支援が必要かニーズを把握し、継続的な支援を行っていく必要がある。

（３）地域連携事業

自治会・町内会の調査や活動者への取材によって地域課題や課題解決のための取り組みの掘り起こし、資源のつなぎ直し、情報の流通、課題解決のためのネットワーク構築を目指す。「地域づくり基礎調査」では自治会・町内会へのヒアリングと事例の共有、「月刊フリーペーパーtag 発行」では地域課題、課題解決のための取り組み事例・ノウハウの発信を行った。

【成果】

- 「地域づくり基礎調査」で 4 地区（高橋東二区、東田中南区、東能ヶ田区、志引区）へ聴き取りし、収集した情報を「地域づくり新聞」にまとめて発信することで、地域の取り組みや課題を可視化させ、各町内会へ共有することができた。また、情報交換会に 52 名（うち区長・役員 37 名、民生委員 6 名）が参加し、地区間で課題や取り組みの共有をすることができた。また、この報告会で発表された事例を参考に、2 つの地区で新たな取り組みがはじまることとなった。
- 「月刊フリーペーパーtag 発行」では、民間店舗を中心に配架先が新たに 18 ヶ所増え、計 207 ヶ所となった。多くの市民に地域課題や課題解決の取り組みを知ってもらうきっかけとなった。また、tag がきっかけとなって 13 名の市民が T S C の講座や市民活動に参加した。

【課題】

- 自治会・町内会の調査や活動者への取材から出てきた課題の分析が充分でなく、さらに課題の深掘りと分析を進めた上で、市民への可視化や解決のための仕組みづくりを行う必要がある。

（４）市職員研修事業

多賀城市が市政運営の基本としている市民協働の基盤づくりのために、市民協働への正しい理解や具体的な手法を学ぶ。これまでは実際に N P O の活動にふれてもらったり、市民役と行政職員役に分かれて市民との関わり方を再確認するロールプレイング等を実施した。平成 29 年度は、「文化・芸術」という観点から市民の創造性やシビックプライドを形成し、市民主体・市民協働のまちづくりを進めるための研修を行った。

【成果】

- 「市民」を、サービスを提供する相手から、一緒に地域をつくっていく相手という認識を持つ市職員を増やすことができた。

- 職員同士で意見を交わし合うことで、多様な考え方があるという気付きを得る機会を提供できた。

【課題】

- 平成 28 年度は特に市民の主体性を育むためのテーマとして「文化・芸術」が設定された。次年度以降は、こうした市民の関わりやすさを大事にする一方で、実際に活動している N P O にふれる機会もつくり、協働を進める環境を整える必要がある。

※上記事業の具体的な報告は 41 ページから掲載する。

I -3 運営状況

I-3-1 利用状況集計

1 主な項目の利用状況推移（平成20～28年度）

		貸室		フリースペース			印刷機		情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	利用枚数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	枚	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	218,318	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	342,248	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	361,553	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	479,306	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	603,693	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	576,452	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	814	566,837	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	838	722,674	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度	4月	154	1,794	21	71	239	97	119,656	169	0	29	35	6	477	2,039
	5月	153	1,899	27	118	222	65	55,102	151	7	22	30	7	432	2,151
	6月	158	1,697	23	80	176	62	56,177	137	2	23	23	106	511	1,883
	7月	175	2,200	31	90	180	54	40,018	174	1	30	33	23	488	2,384
	8月	156	1,813	16	56	179	33	16,166	111	1	31	36	6	355	1,950
	9月	183	2,176	27	76	187	65	35,870	202	4	26	28	12	520	2,376
	10月	204	2,563	42	101	274	67	55,307	168	3	24	34	63	572	2,821
	11月	175	2,158	24	52	144	41	20,531	133	3	17	25	12	405	2,292
	12月	169	2,130	28	70	209	26	11,306	178	5	35	49	10	453	2,288
	1月	139	1,612	22	77	165	29	16,027	176	3	27	34	41	438	1,768
	2月	173	1,982	31	75	182	30	25,714	105	4	24	44	136	504	2,154
3月	205	2,185	18	64	252	56	57,718	167	7	32	50	10	496	2,401	
平成28年度計		2,044	24,209	310	930	2,409	625	509,592	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
前年度比		92%	92%	136%	117%	106%	75%	71%	101%	190%	102%	116%	104%	96%	93%
総計		12,995	162,949	1,246	3,942	12,173	5,513	3,657,999	11,066	1,385	2,660	3,278	3,114	38,109	172,722
平均		1,624	20,369	156	493	1,522	689	457,250	1,383	173	333	410	389	4,764	21,590

※利用件数・人数は利用票提出分

※カウント数はスタッフによる定時見回り時のべ人数

<平成28年度の特徴>

- ・利用件数の増加が顕著なのはフリースペースとパソコンである。
- ・フリースペースは展示以外に短時間のオープンな打合せなどでの利用による増加である。
- ・パソコン利用ではプリンター出力を伴ったものや、スマートフォンでは操作困難なウェブ作業の利用が増えている。
- ・一方で、利用件数が減少したのは貸室と印刷機である。
- ・貸室は平成26年度と同水準であることからT S Cの運営や利用者の劇的な変化がない限り、件数は2,000～2,200件、人数は24,000～26,000人程度で推移すると考えられる。
- ・印刷機の利用は前2年度分と比較して下がっている（件数としては200件ほど）。理由として、T S Cを頻繁に利用していた団体（施設）が自前の印刷機を導入したこと、定期的に利用していた団体が活動を縮小したこと、同じく定期的に利用していた団体が印刷を業者へ外注したことが挙げられる。

1 情報関連業務利用状況推移（平成20～28年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度	4月	97	119,656	481	0	67	19	20	63	169	1	14	20
	5月	65	55,102	1,196	7	80	7	14	50	151	0	9	14
	6月	62	56,177	603	2	71	6	15	45	137	0	14	19
	7月	54	40,018	574	1	86	10	20	58	174	2	22	30
	8月	33	16,166	805	1	48	8	17	38	111	0	14	19
	9月	65	35,870	557	4	105	10	27	60	202	0	8	14
	10月	67	55,307	595	3	88	8	20	52	168	1	13	22
	11月	41	20,531	480	3	59	18	16	40	133	0	12	19
	12月	26	11,306	539	5	84	15	22	57	178	1	10	16
	1月	29	16,027	504	3	72	13	20	71	176	1	7	12
	2月	30	25,714	381	4	43	5	11	46	105	0	11	18
	3月	56	57,718	823	7	66	12	13	76	167	1	4	6
平成28年度計		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
前年度比		75%	71%	96%	190%	101%	92%	97%	103%	101%	54%	91%	97%
総計		5,537	3,813,836	48,377	1,372	5,233	488	1,206	4,134	11,061	147	817	1,076
平均		692	476,730	6,047	172	654	122	151	517	1,383	21	117	154

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
 ※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

<平成28年度の特徴>

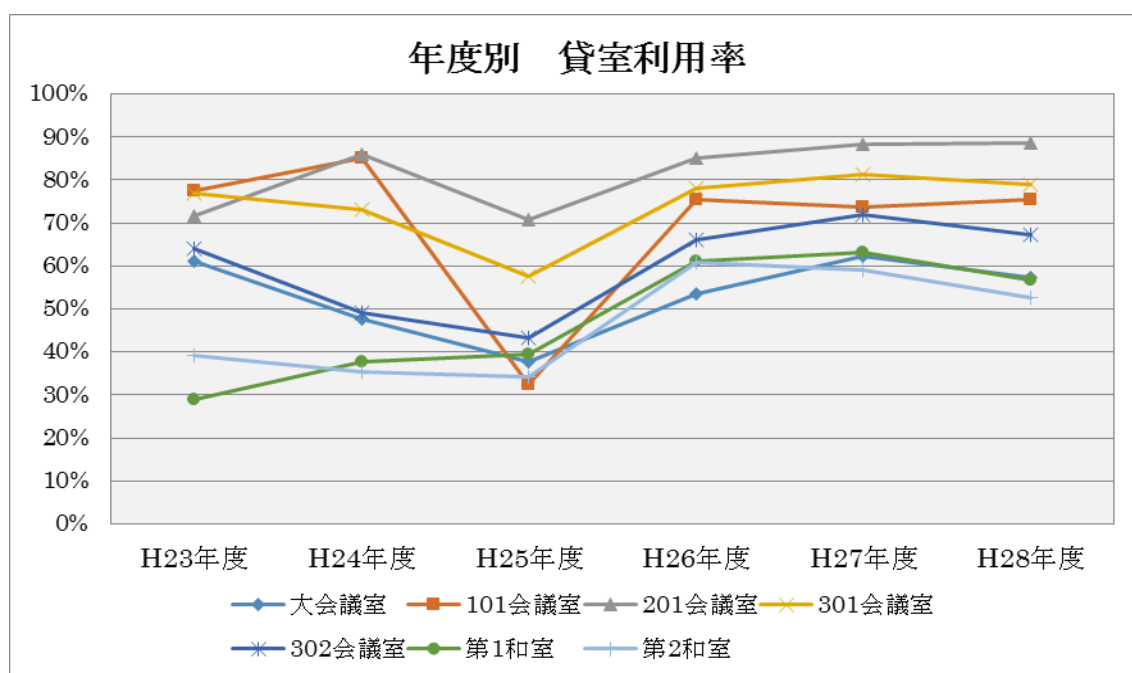
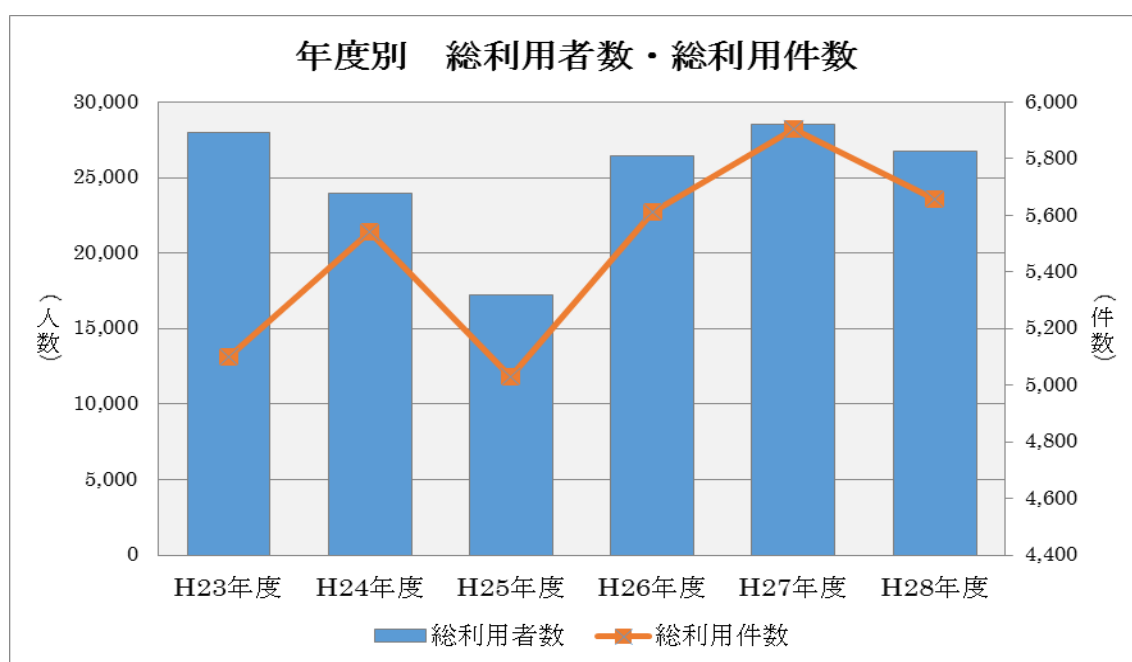
- ・貸出図書の新規登録者数が前年度比54%（7件）と大きな減少となったが、貸出件数・冊数に大きな減少はない。
- ・情報揭示は前2年度と大きな差は認めらず現状を維持している。

I-3-1-2 総利用数

平成 28 年度は総利用者数 26,713 人（前年度比－1,811 人）、総利用件数 5,658 件（－245 件）。月平均利用者数 2,226 人（－151 人）、利用件数 472 件（－20 件）である。

平成 25 年度は改修工事により総利用者数・総利用件数が大きく減少したが、平成 26・27 年度と増加し、直近 3 年度では総利用者数が 26,000 人を超えている。これは平成 23 年度の東日本大震災後の市内公共施設の長期休館に伴い、代替施設として T S C へ利用が集中した時と同規模である。平成 28 年度を見ると総利用者数・総利用件数は若干減少しているが、複数年度で見ると徐々に増加しており、T S C の認知度が根付いているといえる。

貸室の利用率は、10 名～30 名程度で使え、かつ和室ではない会議室が高い。ただし和室や大会議室の利用率も 50%を超えており、多様な使い方がなされている。



※午前・午後・夜間の貸出区分のうち、1 日 1 区分以上利用がある場合を利用率 100%としている。

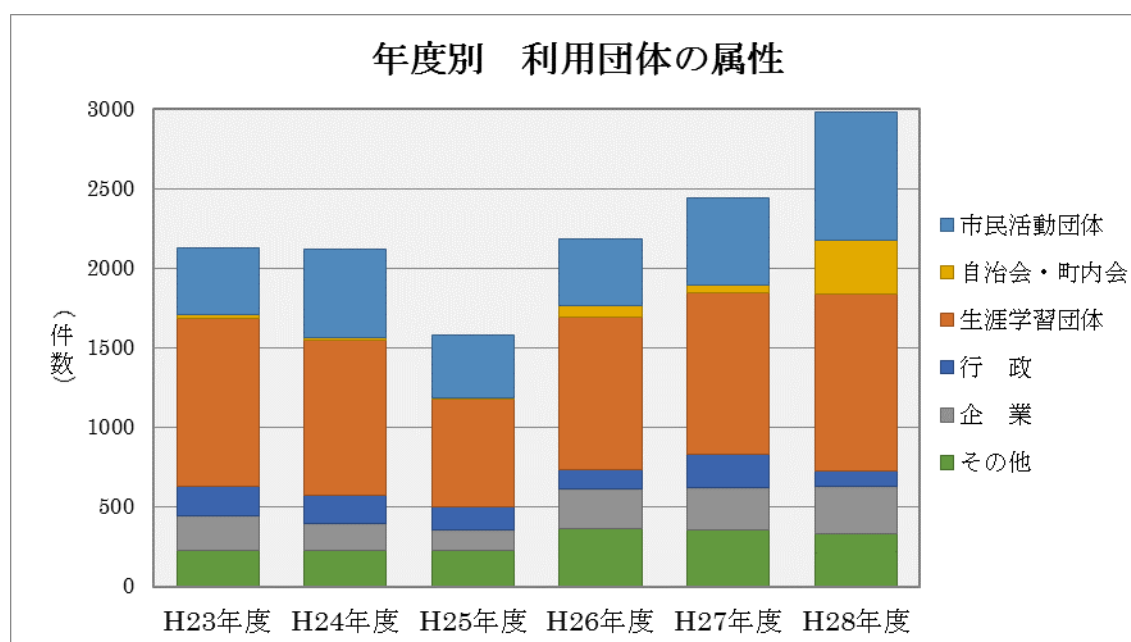
利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出と印刷機利用に基づいて集計

市民活動団体	： 802 件	生涯学習団体	： 1,112 件	企 業	： 295 件
自治会・町内会	： 339 件	行 政	： 99 件	その他（個人など）	： 333 件

平成 27 年度までは貸室やフリースペース、事務用ブースの利用実績を基に分析していたが、利用実績をより正確に把握するため、平成 28 年度から印刷機を利用する団体の属性も含めている。

貸室を定期的に利用する生涯学習団体の件数が平年並みに高くなっており、それ以外では市民活動団体 802 件（+252 件）、自治会・町内会 339 件（+286 件）の増加が著しい。市民活動団体については、新たに事務用ブースに入居した団体が、活動拠点として貸室やブースを利用していることが増加の要因として挙げられる。自治会・町内会は印刷機利用が多く、前年比 640%と大幅に増加しており、集会所を持つ自治会・町内会にとっては貸室よりも印刷機のニーズが高いことが分かる。また、地域連携事業における T S C と自治会・町内会の継続的な関係構築が実を結びつつあることも要因として挙げられる。



年度別利用団体の属性（単位：件）

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	合 計
市民活動団体	417	556	394	418	550	802	3,137
自治会・町内会	27	19	11	70	53	339	519
生涯学習団体	1,054	972	676	961	1,016	1,112	5,791
行 政	182	179	148	127	209	99	944
企 業	219	173	130	244	259	295	1,320
その他	226	222	223	365	359	333	1,728
合 計	2,125	2,121	1,582	2,185	2,446	2,980	

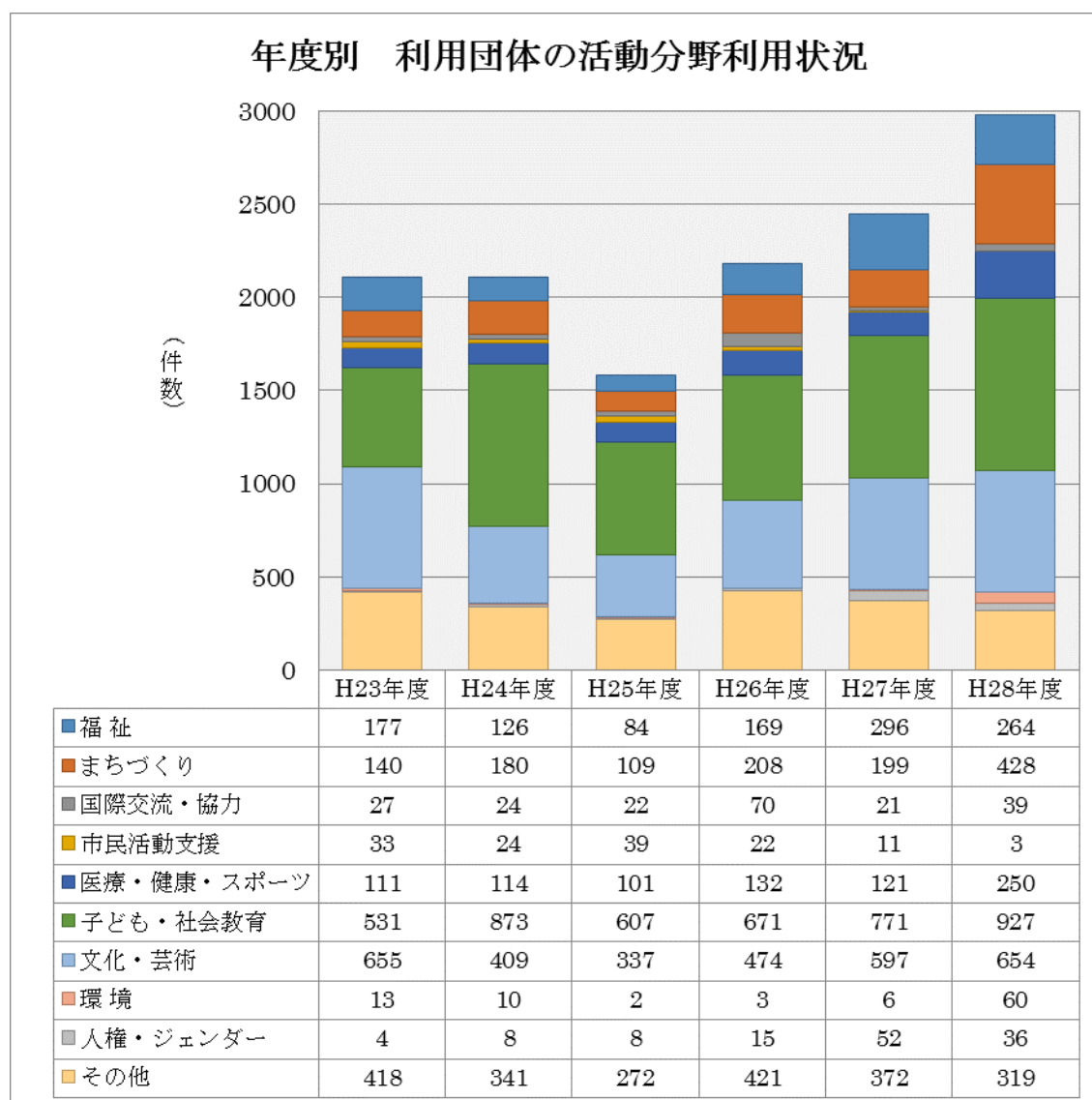
利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出と印刷機利用に基づいて集計

平成 28 年度から印刷機を利用した団体の活動分野も加算している。そのため全体件数は 2,980 件（+534 件）である。利用票提出は貸室利用者が約 9 割を占めるため、貸室を定期利用する生涯学習団体の活動分野である「子ども・社会教育」「文化・芸術」は高い数値である。

増加したのは「環境」60 件（+54 件）、「まちづくり」428 件（+229 件）、「医療・健康・スポーツ」250 件（+129 件）、「国際交流・協力」39 件（+18 件）である。要因は「環境」の団体が事務ブースに入居し定期利用したこと、「まちづくり」「医療・健康・スポーツ」は自治会・町内会やスポーツ少年団などの印刷機利用を加算したことが挙げられる。

逆に減少したのは「福祉」264 件（-32 件）、「人権・ジェンダー」36 件（-16 件）、「市民活動支援」3 件（-8 件）である。「福祉」はこれまで週 1 回の頻度で利用していた団体が、事務局体制に合わせて適切な頻度に活動を減らしたことが挙げられる。「人権・ジェンダー」では、平成 27 年度にジェンダーを活動分野としていた団体が、平成 28 年度は利用がなかったことが要因として考えられる。「市民活動支援」は、利用者による利用を把握するため、TSC 企画・実施の利用を平成 28 年度から除外し算出したことから減少している。



I-3-2 相談対応実績

平成 28 年度の相談件数は 320 件で、ほぼ平年並みの件数だった。うち市民活動相談が 135 件と全体の 42.2%を占めている。市民活動相談の中では、団体運営に関する「ジャンプ」に分類される相談が 72 件と市民活動相談のうちの 53%を占めている。相談者の属性でみると、市民活動団体が最も多く、ついで個人となっている。事業後のアフターフォローを相談対応で行っており、継続的な支援に取り組んでいる。

<相談対応の流れ>

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPO等のサービスを求めている方からの相談

その他：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
 - ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
- すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあっては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善等につなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言等をもらっている。

<集計一覧>

1. 件数、人数、属性など

			H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28																
属性など			総計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	総計			
相談件数 (件)			297	309	354	527	287	226	340	315	29	22	23	30	31	26	24	17	35	27	24	32	320	2,975			
開館日 (日/月)			253	305	289	306	306	304	306	306	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	26	307	2,682			
件数平均 (件/日)			1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.1	0.8	0.9	1.1	1.2	1.0	0.9	0.7	1.5	1.1	1.0	1.2	1.0	1.1			
人数 (人)			348	374	386	645	375	307	377	357	35	30	23	33	36	28	34	25	49	34	44	50	421	3,590			
対応時間月計 (分)			5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	595	435	600	650	610	595	465	529	1,030	855	615	1,230	8,209	65,873			
対応時間平均 (分/日)			22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	22.9	16.1	24.0	24.1	23.5	22.9	17.2	21.2	42.9	35.6	25.6	47.3	26.7	24.6			
対応時間平均 (分/件)			18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	20.5	19.8	26.1	21.7	19.7	22.9	19.4	31.1	29.4	31.7	25.6	38.4	25.5	200.0			
対面	件数 (件)		235	235	267	322	187	152	213	224	19	17	14	18	21	15	17	12	26	22	19	24	224	2,059			
	対応時間月計 (分)		4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	505	395	500	100	525	480	390	484	950	35	455	1,165	5,984	55,192			
	対応時間平均 (分/件)		20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.6	23.2	35.7	5.6	25.0	32.0	22.9	40.3	36.5	1.6	23.9	48.5	26.7	26.8			
電話	件数 (件)		58	67	81	195	87	72	119	99	9	5	8	11	10	11	7	5	7	5	2	8	88	866			
	対応時間月計 (分)		605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	85	40	85	540	85	115	75	45	65	820	30	65	2,050	9,845			
	対応時間平均 (分/件)		10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	9.4	8.0	10.6	49.1	8.5	10.5	10.7	9.0	9.3	164.0	15.0	8.1	23.3	11.4			
その他			件数 (件)		4	7	6	9	13	2	8	2	1	0	1	0	0	0	2	0	3	0	8	59			
			対応時間月計 (分)		95	55	206	39	175	15	36	10	5	0	15	10	0	0	0	15	0	130	0	175	806		
相談者属性	市民活動団体 (件)		85	82	106	155	99	80	93	106	8	8	2	9	7	12	6	8	14	13	8	15	110	916			
	自治会・町内会 (件)		13	14	25	18	27	18	31	28	2	0	2	0	1	0	4	0	1	1	1	2	14	188			
	生涯学習団体 (件)		61	31	39	59	11	8	23	23	2	1	1	2	2	1	0	0	1	1	1	0	12	267			
	行政・外郭 (件)		17	16	25	24	23	26	27	32	5	3	0	1	3	1	3	0	1	1	4	0	22	212			
	企業関連 (件)		19	24	30	56	23	13	24	22	6	2	7	2	5	5	2	4	3	1	2	5	44	255			
	学校・学生 (件)		9	7	9	19	11	2	11	5	0	0	0	2	0	1	1	0	5	0	1	0	10	83			
	マスコミ・議員 (件)		2	2	2	7	2	2	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	23			
	個人 (件)		65	88	81	127	62	51	90	64	4	6	5	10	4	4	4	3	6	7	4	6	63	691			
	その他 (件)		26	45	33	62	30	25	32	33	1	2	5	4	9	2	4	2	4	3	3	4	43	329			
初来館	初来館者 (人)		126	97	99	165	88	79	96	64	9	5	11	11	4	6	7	6	14	4	4	7	88	902			
	どこで知ったか	公共施設 (人)	37	23	34	46	16	23	24	16	1	0	2	0	1	4	0	1	2	0	0	1	12	231			
		ロコミ (人)	14	15	8	24	18	14	25	9	0	1	3	1	0	0	1	2	5	2	2	1	18	145			
		SCホームページ (人)	11	15	24	29	21	19	25	16	5	1	2	4	1	2	2	2	1	0	2	24	184				
		その他 (人)	64	44	33	66	33	23	22	23	3	3	4	6	2	0	4	1	5	1	2	3	34	342			

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数 (件)		97	99	94	163	73	57	100	76	12	6	10	12	8	10	7	7	7	7	8	11	105	864
対応時間 (分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	130	100	110	175	50	220	70	79	80	140	100	100	1,354	10,279
対応時間平均 (分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	10.8	16.7	11.0	14.6	6.3	22.0	10.0	11.3	11.4	20.0	12.5	9.1	12.9	11.9
利用目的	貸室 (件)	77	69	62	116	59	37	71	56	8	4	10	11	8	6	5	5	5	7	6	6	81	628
	印刷室 (件)	9	16	27	19	5	10	15	6	1	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0	2	9	116
	チラシ (件)	6	10	4	9	6	6	10	11	3	0	0	1	0	3	0	1	2	0	2	2	14	76
	ポスター (件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	その他 (件)	3	4	0	5	3	4	2	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	26

(2) 施設利用相談

「施設利用相談」 (件)		72	25	46	60	13	11	29	42	3	4	2	1	4	4	2	0	1	0	3	3	27	325
対応時間 (分)		866	270	599	643	136	170	296	655	50	35	25	10	55	55	15	0	60	0	45	65	415	4,050
対応時間平均 (分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	16.7	8.8	12.5	10.0	13.8	13.8	7.5	0	60.0	0	15.0	21.7	15.4	12.5
場の提供	貸室 (件)	46	11	19	34	2	3	10	19	0	3	2	1	2	4	1	0	0	0	1	2	16	160
	フリースペース (件)	2	1	1	1	2	1	5	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	21
	ロッカー (件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	レターケース (件)	3	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	11
	共同事務室 (件)	2	4	1	6	2	0	1	4	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5	25
	展示スペース (件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	駐車場 (件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	備品 (件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	その他 (件)	3	2	6	9	2	1	2	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	30
	PC (件)	2	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7
情報関係	インターネット (件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コピー機・印刷機 (件)	6	2	7	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21
	チラシ・ポスター (件)	13	2	4	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	サポートセンターHP (件)	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
	サポートセンター情報誌 (件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	その他 (件)	2	3	1	1	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13

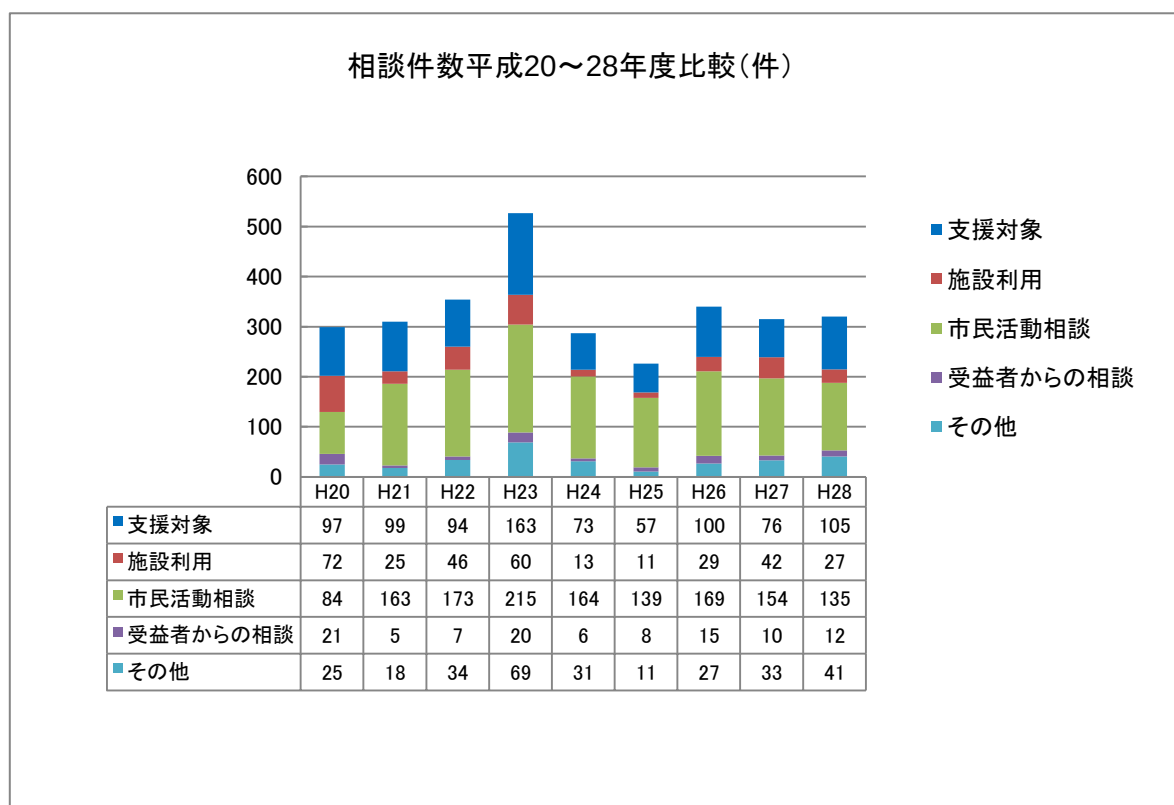
(3) 市民活動相談

「市民活動相談」(件)			84	163	173	215	164	139	169	154	9	8	8	11	15	8	11	7	21	12	10	15	135	1,396
対応時間(分)			2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	4,676	4,790	255	225	435	345	345	250	300	395	740	595	445	1,030	5,360	41,746
対応時間平均(分/件)			29.8	25.0	30.4	25.7	34.8	27.6	27.7	31.1	28.3	28.1	54.4	31.4	23.0	31.3	27.3	56.4	35.2	49.6	44.5	68.7	39.7	29.9
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)		21	47	41	56	46	53	40	44	4	2	1	1	5	3	6	1	4	2	1	3	33	381
	ボランティア相談(件)		6	16	24	35	10	13	15	4	0	2	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	7	130
	NPO基礎情報(件)		10	3	3	2	3	1	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3	31
	その他(件)		14	8	9	20	13	10	11	3	0	0	1	3	3	0	1	0	3	0	0	0	11	99
ホップ計			51	74	77	113	72	77	72	51	4	4	2	5	8	3	7	2	10	4	1	4	54	641
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)		7	23	12	5	7	1	7	12	0	0	3	0	2	0	0	0	3	0	0	8	82	
	NPO法人の設立(件)		2	2	1	2	8	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	26
ステップ計			9	25	13	7	15	5	11	14	0	0	3	0	2	0	0	0	0	3	1	0	9	108
ジャンプ	団体運営	団体PR(件)	4	10	31	12	3	9	15	9	0	1	0	3	1	1	0	0	3	0	0	1	10	103
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	43	19	1	0	1	1	0	1	0	2	1	1	4	8	20	207
		助成金(件)	0	2	2	9	14	7	5	10	0	0	1	1	3	1	0	0	0	0	0	1	7	56
		会計(件)	0	3	2	0	1	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7
		その他(件)	7	16	27	18	32	13	13	32	2	1	1	1	1	2	2	1	7	0	3	0	21	179
	その他(件)		3	3	2	17	10	5	5	12	2	2	0	0	0	0	1	2	0	4	1	1	13	70
ジャンプ計			24	64	83	95	77	57	86	89	5	4	3	6	5	5	4	5	11	5	8	11	72	647

＜相談件数＞

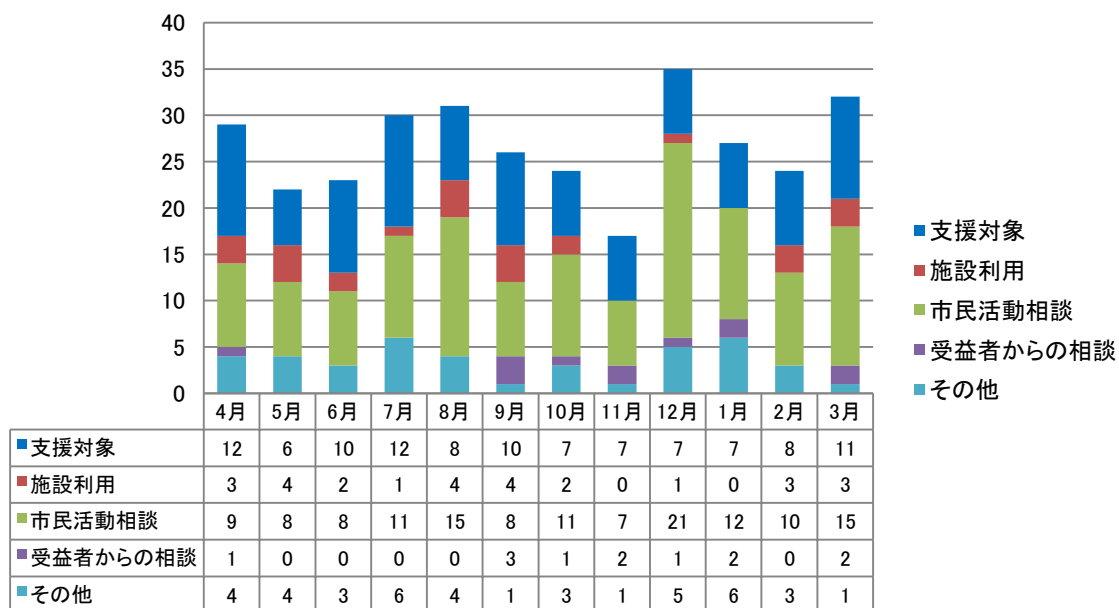
総 件 数 320 件（月平均 26.7 件）

対応時間 8,209 分（月平均 684 分（11 時間 24 分）、1 件平均 25.7 分）

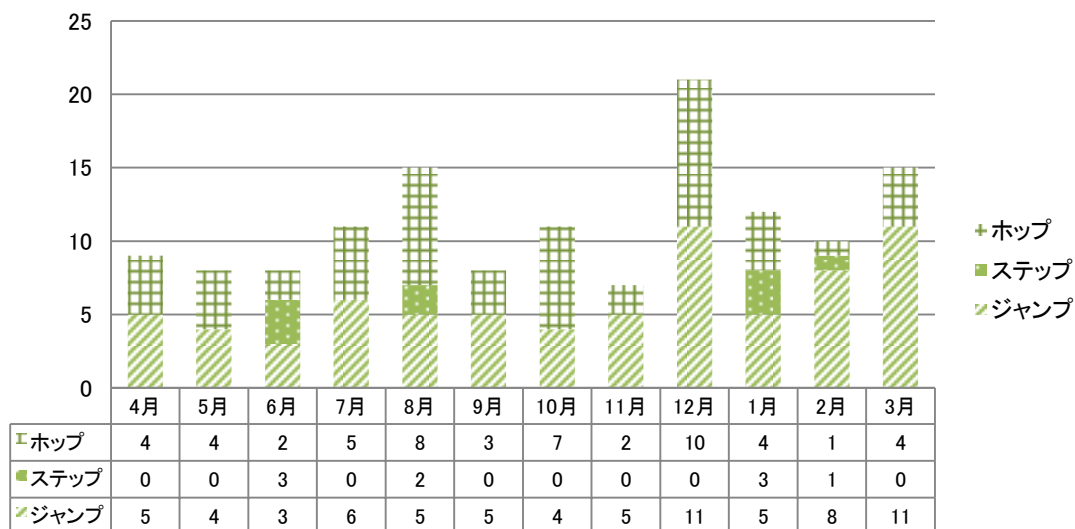


平成 28 年度の相談件数は 320 件。平成 20～28 年度でみる年間の相談件数の平均は 331 件で、平成 28 年度はほぼ平均の件数だった。市民活動相談が全体の 42.2%を占めている。

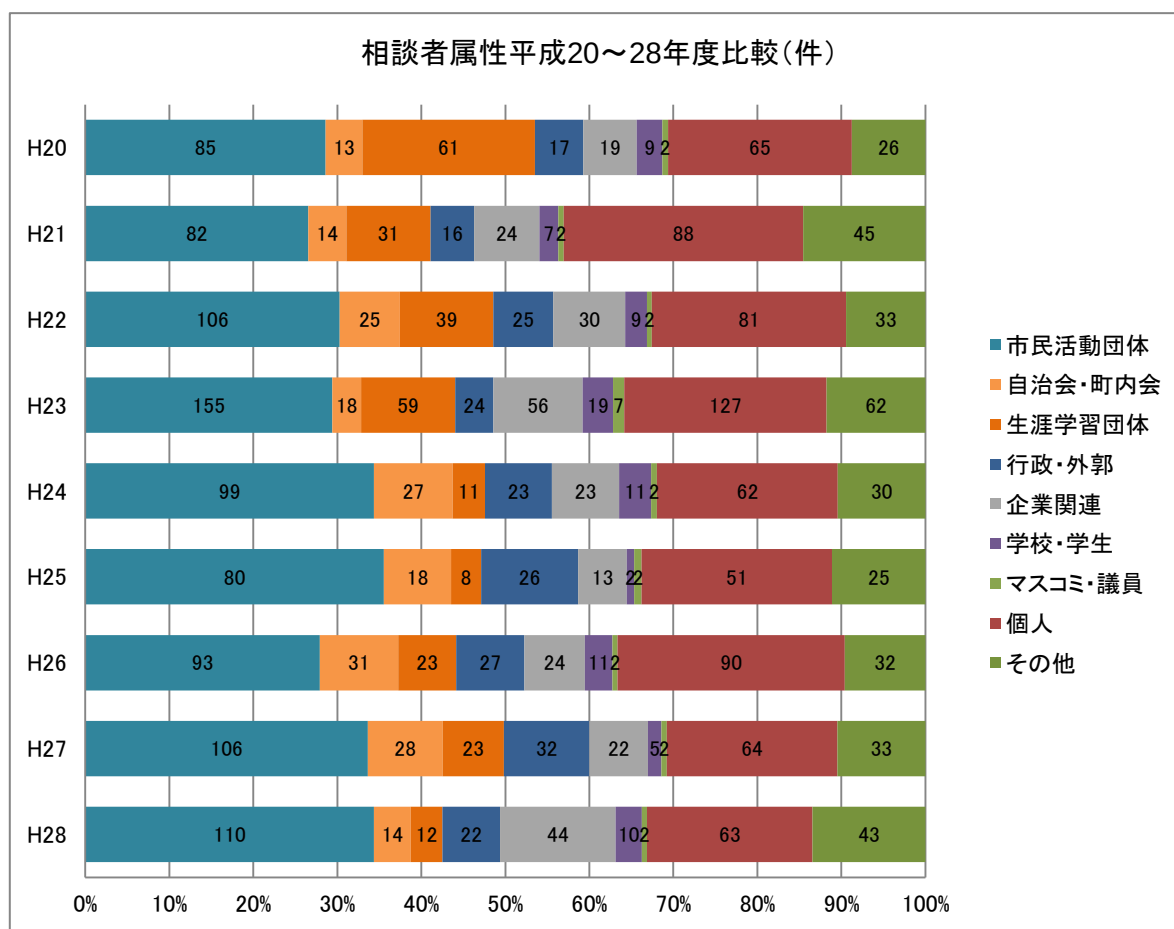
平成28年度月別相談件数(件)



平成28年度「市民活動相談」月別相談件数(件)



月別相談件数および市民活動相談件数をみると、新年度の活動が始まる4月、活動が活発になり、事業実施が本格化する7・8月、新年度に向けた計画を立て始める時期の12月、新年度に備える3月には、相談件数が多くなる傾向がある。

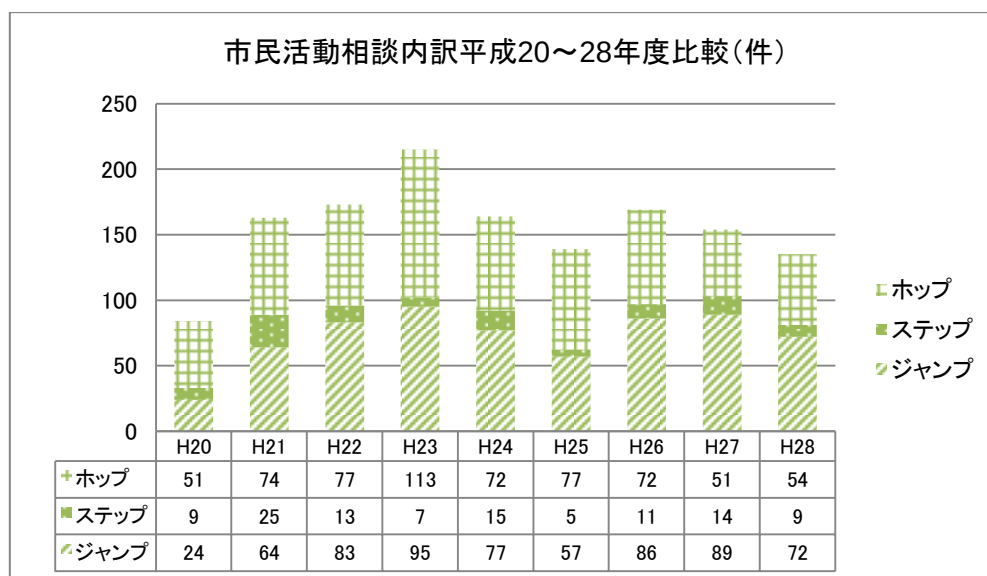


相談者の属性をみると、市民活動団体が多く、ついで個人、企業、行政・外郭が続いている。今年度は企業との接点を増やしたことで、企業からの相談件数が前年度の2倍になった。

市民活動団体の中にも、学生が主となっている団体が含まれているため、学生からの相談件数は学校・学生で示された件数よりも実際には多い。

なお、その他には、メンバーが限られた共益的な活動をしている団体が該当する。

＜市民活動相談の内訳＞

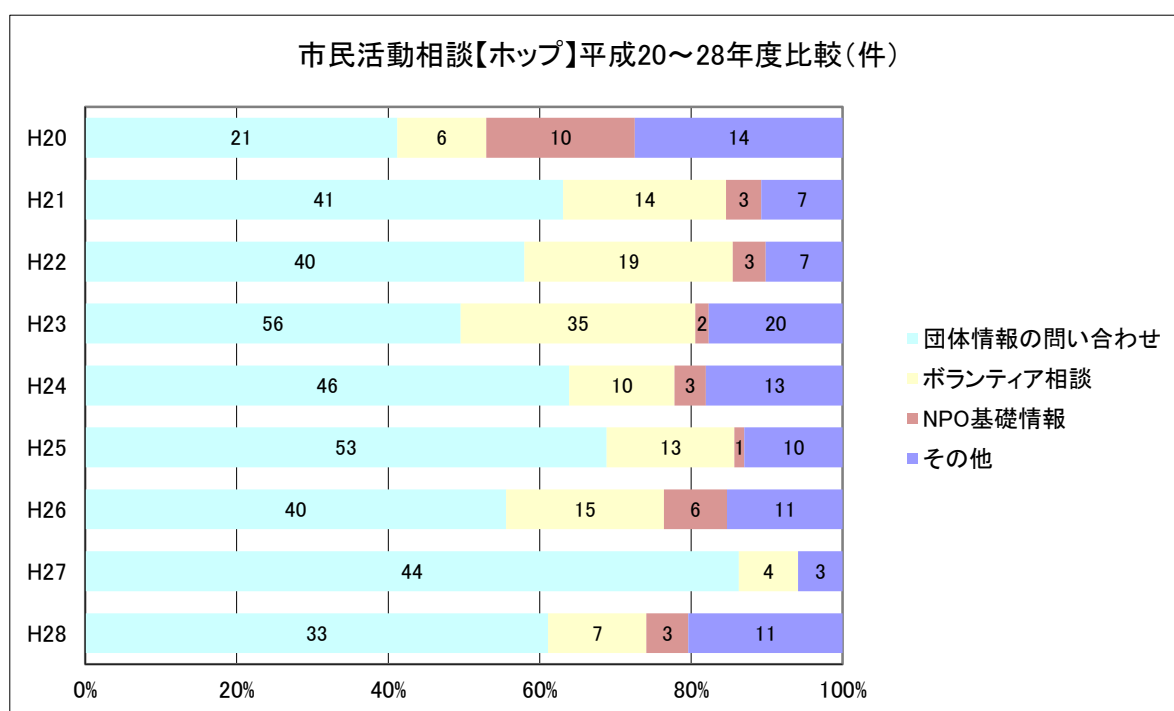


市民活動相談の中で一番件数が多かったのは、ジャンプ段階の相談で、開館以来最も多かったホップ段階の相談の件数を上回る傾向が平成 26 年度から続いている。

市民活動相談は、継続的に対応している案件や、活動の状況に応じて定期的に対応している案件が多かった。また、事業参加者からの相談もあり、日常的な相談が活動をステップアップさせるためのフォローアップの役割を果たした。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など



団体情報の問い合わせが61.1%と最も多く、活動先や連携先となる団体情報を求めて来館される方が多い。具体的には、退職後の活動先、子ども会から行事に呼ぶ講師の相談、相談機関から相談者からの問い合わせのあった分野の団体情報など、多様な属性から寄せられた。

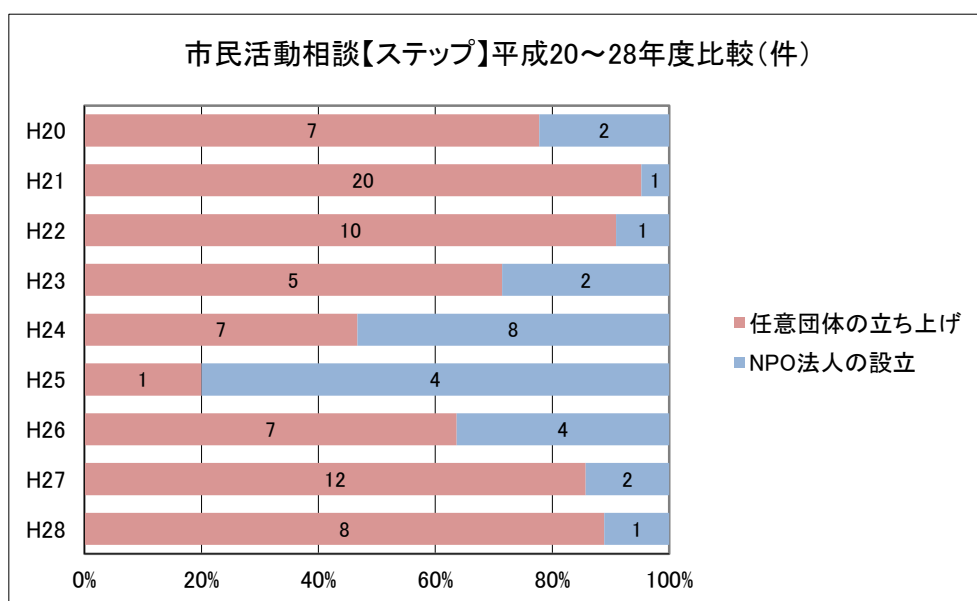
ボランティア相談では、「子ども」「障がい者支援」など特定の分野で活動先を探す個人からの相談が多い。活動エリアは多賀城市周辺の希望が多く、市内の活動先の情報収集を強化する必要がある。

NPO基礎情報の提供では、法人化も視野に入れた上でNPO法人とはどういうものかとの問い合わせがあった。NPOの基礎情報を個別に伝える講座「出前NPOいちから塾」を活用し、対応した。

その他では、行政に対する市民の声の届け方、市民活動団体や学生、引っ越してきて間もない個人による地域情報の収集等が含まれる。

●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談



学習支援、こども食堂、子育て相談・交流の場づくり、託児による子育て支援など子どもに関する活動の立ち上げ相談が多く寄せられた。

自分のスキルを活かして子どもを対象にした教育プログラムを立ち上げたいなど、自分のスキルを活かした活動立ち上げ相談も多い傾向がある。

事業への参加をきっかけに、コミュニティFMの立ち上げ、高校生が主体で活動する団体の立ち上げといった市内に他にない活動の立ち上げ相談もあり、市民活動の充実が見込まれる。

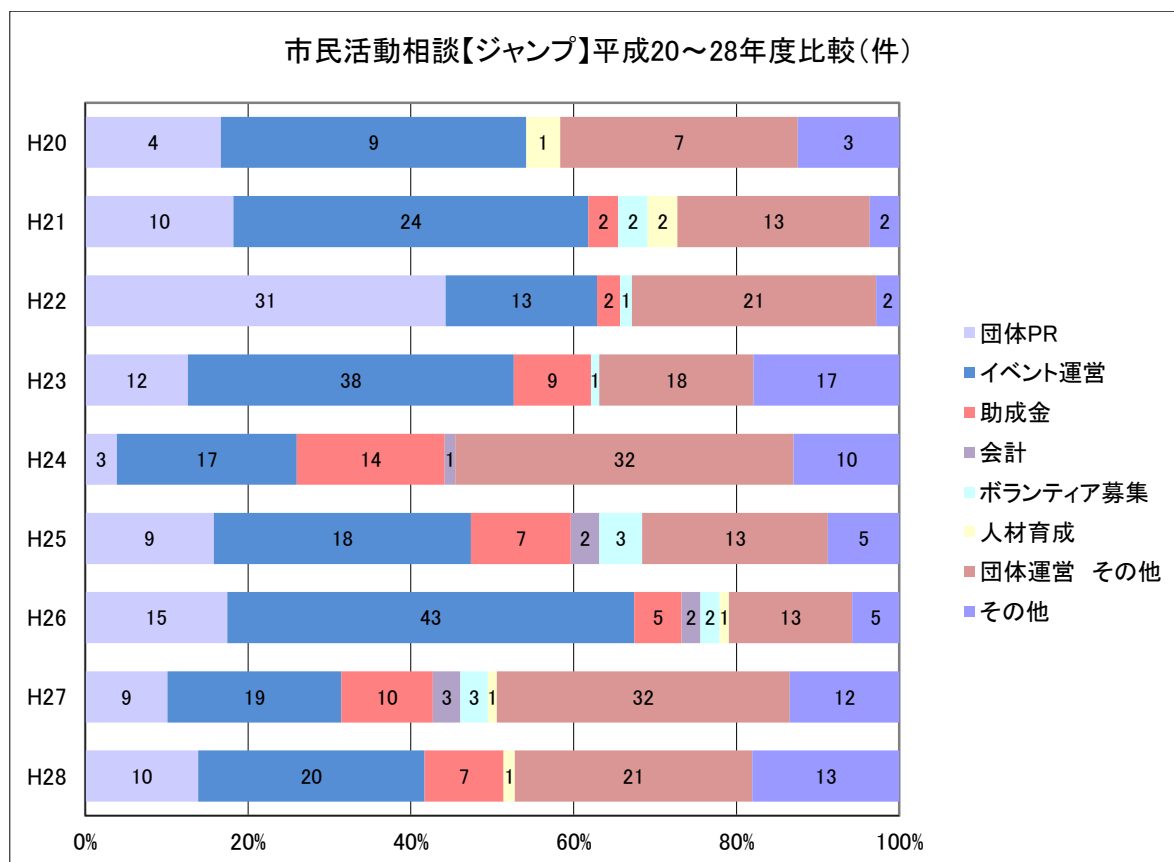
任意団体の立ち上げ相談 8 件のうち、以下の 5 団体が活動を立ち上げた。

平成 28 年度立ち上げ団体・活動（5 団体）

団体・活動名	活動内容	立ち上げのきっかけ
小さなお花畑	母親の子育て相談、母親同士の子育てに関する情報交換や交流の場づくりを行う。	TAGAJ0 Future Labo
丘の上FM	地域情報を発信するコミュニティFMを多賀城で実現しようと取り組む。	NPOいちから塾
高崎こども食堂らっこ広場	子どもたちに、少しでもおいしく、楽しく、安心して食事をする場の提供を行う。	相談対応
たがじょう転入組	転入者が集まり、多賀城での暮らしをもっと楽しくするための情報交換を行う。	ようこそ！たがじょうカフェ
ママたちの情報交換会	子育て中のママと子育て支援を行っている方が一緒に子育てに関する情報交換を行う。	ハッピーママサロン

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談



イベント運営に関する相談が最も多く、次に団体PRに関する相談が多かった。

その他に含まれるものとしては、ネットワーク相談が多く、子どもの活動をしている方が同じ分野で活動している方との連携に関する相談や、行政から今後の取り組みを検討するにあたりNPOの話を聞く機会の設定、活動を始めようとしている市民活動団体と行政をつなぐ、地域貢献をしたい企業と市民活動団体をつなぐなど、市民活動団体と行政、企業と市民活動団体、個人と市民活動団体とをつなぐ案件が多くみられた。

I-3-3-1 団体情報ファイル

■団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款（会則）、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

今年度、ファイル数は1,847団体（前年度比+3%）に増加した。復興支援団体や復興を経た上で新たなまちづくりに取り組む団体の情報が前年度までである程度届いていたこともあり、今年度の増加率は低くなっている。

二市三町の団体情報ファイル数は、215団体（前年度比+8%）に増加した。相談対応を経て新たにはじまった取り組みやTSCを拠点に活動をはじめた団体が新たに加わったため、情報の増加につながった。

次年度以降は、より多賀城の課題に合わせた団体の情報収集に力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信することで、情報の価値を高めていく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援するTSC独自のツール。

団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。

提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、TSCのウェブサイト上で公開している。

平成28年度末現在101団体の団体紹介シートを公開している。

■団体情報ファイル数（単位：団体）

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
市民活動支援	2	22	185	209	市民活動支援団体、助成活動
福祉	16	133	50	199	障がい者支援、高齢者支援、依存症、配食サービス、移送サービス、地域福祉
スポーツ・健康・医療	22	63	86	171	スポーツ振興、健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防
人権・ジェンダー	4	36	48	88	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、男女共同参画、DV、マイノリティ
子ども・社会教育	46	119	92	257	子育て、青少年健全育成、障がい児、不登校、ひきこもり、児童虐待、生涯教育、母子・父子家庭支援
環境	12	92	79	183	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	43	182	129	354	まちづくり、地域づくり、地域おこし、災害救援、地域安全・防災
国際交流・協力	8	37	59	104	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	50	95	45	190	文化振興、文学、音楽、劇団、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版
シニア	1	17	3	21	セカンドライフ、団塊世代
その他	0	30	30	60	オンブズマン(行政監視)、行政提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
自治会・町内会	11	0	0	11	自治会・町内会、老人クラブ、子ども会
合 計	215	826	806	1,847	

二市三町：多賀城市 塩釜市 松島町 七ヶ浜町 利府町

■分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
市民活動支援	47	116	129	143	151	154	185	206	209
福祉	52	110	135	150	161	172	180	192	199
スポーツ・健康・医療	34	72	88	103	122	137	160	168	171
人権・ジェンダー	20	43	55	62	75	80	85	87	88
子ども・社会教育	57	109	128	155	197	212	232	245	257
環境	32	69	84	104	131	150	168	178	183
まちづくり	47	112	156	202	259	285	312	338	354
国際交流・協力	19	53	60	65	77	85	101	102	104
文化・芸術	22	61	81	115	152	164	164	179	190
シニア	8	13	16	17	17	19	21	21	21
その他	19	28	35	42	50	57	59	60	60
自治会・町内会			6	6	6	8	9	11	11

■二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
市民活動支援	1	1	1	1	1	1	2	2	2
福祉	4	8	11	11	11	12	15	17	16
スポーツ・健康・医療	3	8	9	11	14	15	17	21	22
人権・ジェンダー	0	0	1	1	1	1	2	3	4
子ども・社会教育	6	12	13	20	28	31	37	43	46
環境	6	8	8	9	11	11	10	11	12
まちづくり	8	17	20	30	41	43	34	39	43
国際交流・協力	5	7	8	8	9	9	8	8	8
文化・芸術	1	6	11	22	35	38	37	44	50
シニア	0	0	1	1	1	1	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自治会・町内会			6	6	6	8	9	11	11

■エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
二市三町	34	67	89	120	158	170	172	200	215(8% ↑)
県内	177	411	475	567	644	691	752	794	826(4% ↑)
県外	127	308	409	477	596	662	752	793	806(2% ↑)
合 計	338	786	973	1,164	1,398	1,523	1,676	1,787	1,847(3% ↑)

I-3-3-2 ウェブサイト・ブログ・ツイッターの運用

■ウェブサイト・ブログについて ※ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設 ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

		ウェブサイト	ブログ
		訪問者数	訪問者数
		件	件
平成 20 年度			7,389
平成 21 年度		9,777	15,889
平成 22 年度		98,038	42,105
平成 23 年度		196,154	76,607
平成 24 年度		58,685	20,056
平成 25 年度		64,654	24,957
平成 26 年度		73,837	24,749
平成 27 年度		70,953	25,150
平成 28 年度	4 月	6,196	2,260
	5 月	623	2,192
	6 月	700	2,026
	7 月	765	2,891
	8 月	684	1,906
	9 月	717	1,664
	10 月	746	1,908
	11 月	886	2,142
	12 月	806	1,974
	1 月	748	1,527
	2 月	756	1,594
	3 月	701	1,822
平成 28 年度計		14,328	23,906

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

平成 22、23 年度は東日本震災関連の情報を発信したため、ウェブサイト・ブログともに訪問者数が急増した。

平成 28 年度はセキュリティ対策として 5 月にアクセス解析ソフトを入れ替え、集計方法を変えたため、4 月と 5 月以降、平成 28 年度と平成 27 年度以前でそれぞれ大きな違いが出ている。

ブログは前年度より訪問者数は若干減少している。1 記事あたりの平均訪問者数を見ると、

- ・平成 26 年度 計 254 記事 平均訪問者数 97 件
- ・平成 27 年度 計 261 記事 平均訪問者数 96 件
- ・平成 28 年度 計 236 記事 平均訪問者数 101 件

であり、総訪問者数と記事数は比例していることが分かる。したがって、更新頻度を上げると訪問者数もその分増加する。

7 月は「多賀城ビアフェスタ」の情報を発信したこと、11 月は T S C 事業の講師が SNS でブログを紹介したことで訪問者数が増加した。このことから、市民の関心のあるイベントの発信や SNS での拡散が訪問者数増加に効果的であるといえる。こうした工夫で一時的に訪問者を増やし、市民活動に関心を持つ、あるいは市民活動に役立つ情報を発信し、定期的な訪問者を獲得していく。

■ツイッターについて 平成 23 年 9 月 1 日開設

フォロワー／TSC がチェックするユーザー フォロワー／TSC をチェックしているユーザー

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
フォロワー	751	1,880	1,984	1,965	1,937	1,920
フォロワー	422	1,092	1,371	1,562	1,714	1,821

ブログの更新と事業のお知らせをしている。

今年度もブログ更新や T S C 事業の告知を行い、フォロワーに対して広く、T S C の情報を発信することができた。今後は「リツイート」「いいね」といった機能も活用しながら、T S C の周知を図っていく。

I-3-3-3

共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用

目 的	事務用ブースの入居を通し、団体が独立した活動拠点を確保できるよう「自立・自律」に向けた団体運営を後押しする。
背 景	インキュベートとは「ふ卵器」の意で、TSCの機能の1つである事務用ブースに入居している団体に対し、入居して半年を経過した時点でインキュベート相談（個別相談）の機会を設けている。団体が入居している期間、活動や課題をヒアリングし、情報提供から継続的かつ安定した団体運営ができるようノウハウ提供を行い、「自立・自律」に向けた団体運営を後押ししている。 平成 28 年 7 月には、事務用ブースの審査基準について、以下の目的のもと見直しを行った。 （１）組織・活動規模の大小に関わらず、これから活動を始める団体やすでに活動を行っている団体などの多様な分野で活動する団体が事務用ブースを活用することで、多賀城で活動をする市民活動団体を増やす。 （２）NPO、ボランティアサークルなど非営利・公益活動を行う団体が、事務用ブースに入居し、その機能を十分に活用することで、多賀城の市民活動を活発にする。 また、平成 27 年に実施した過去に入居した団体へのヒアリングや申し出を受け、3 年満期で退去した団体でも再び入居できるよう運用を見直した。
成果目標	・事務用ブースの入居を増やし、市民活動団体の活動を後押しすること。 ・団体の課題を顕在化させ、気づきを促し、課題解決に向けて行動を起こすこと。 ・団体とスタッフとの信頼関係を構築し、相談会以外においても互いが気軽に声がけでき、いつでも相談できる状態をつくること。
対 象	・TSC事務用ブース入居団体（インキュベート相談） ・市民活動、ボランティア活動をする団体・個人など（ワークスペース運用）
成 果	●伴走型支援により団体運営力が向上した 半年ごとのインキュベート相談や日常のコミュニケーション中で、運営に関する課題の整理、NPOの基礎、リスクマネジメントといった相談に応じ、団体運営の力づけにつながった。 ●審査基準・運用を見直したことにより、事務用ブースの入居が増加した 市内で活動する団体がより事務用ブースを利用しやすくするため運用方法（再入居、入居審査基準）の見直しを行い、新たに 3 団体が入居した。
次年度に向けた課題	●入居団体への支援 入居団体が継続的かつ安定して活動できる支援方法や退去後の活動の仕方も早い段階で提案することが必要となる。 ●ワークスペースの周知を拡大する 使用していない事務用ブースを開放してワークスペースとして利用できるようにしているが、十分に活動者へその情報が届いていない。新たな活動者の発掘とワークスペースの周知を進める。

【事業概況】共同事務室入居団体インキュベート相談／ワークスペース運用

●インキュベート相談会について

入居 6 ヶ月ごとに、団体の代表者や事務局を担うスタッフと TSC スタッフとの個別面談を実施する。1 団体あたり約 1 時間程度、活動や運営の現状の把握、課題の整理、解決に向けた情報提供やアドバイスをを行う。

相談内容は、事業展開の方法や広報の仕方、組織内の人材育成や合意形成、資金調達、会員・メンバーの増やし方など、今後を見据えた団体運営に関する内容が多かった。



事務用ブース

第 1 回

日 時：平成 28 年 12 月 12 日（金）13:30～14:30
会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
対 象：ハッピーピース
(平成 27 年 6 月入居／2 年目)

第 2 回

日 時：平成 28 年 12 月 12 日（火）15:00～16:00
会 場：市民活動サポートセンター 101 会議室
対 象：NPO 法人みやぎ生涯学習指導・支援センター
(平成 28 年 6 月入居／1 年目)

第 3 回

日 時：平成 29 年 3 月 16 日（木）10:30～11:30
会 場：市民活動サポートセンター 302 会議室
対 象：生涯学習 100 年構想実践委員会
(平成 28 年 9 月入居／1 年目) ※再入居

第 4 回

日 時：平成 29 年 3 月 18 日（土）19:00～20:00
会 場：市民活動サポートセンター 201 会議室
対 象：NP 多賀城
(平成 28 年 9 月入居／1 年目)

●ワークスペースについて

平成 27 年 12 月 1 日より開始。使用していない事務用ブースを一時的に利用できる機能を設け、NPO・市民活動、ボランティアサークルなど、市民活動を行う団体・個人の活動を支援することが目的。右図のチラシ・ポスターを館内、ホームページに掲載し、利用を呼びかけている。

【今年度利用実績】

- ・利用総数：10 件 ・平均時間：132 分（1 団体あたり）
- ・使用方法：主に事務作業での利用が多かった。平成 26 年度から新設されたフリースペースでパソコンでのデスクワークをする利用者も増えていることから、周囲を気にせず、集中してデスクワークに打ち込みたい団体の利用が見受けられた。



ワークスペース／チラシ・ポスター

I-3-3-4

フリースペース利用促進プロジェクト

目 的	・フリースペースの利用事例を積み上げ、幅広く活用する可能性を見出す。 ・様々な主体による多様な企画が実施されることで、これまでT S Cに来館したことのない市民の訪問を促し、多くの市民が市民活動に触れ興味を持つきっかけをつくる。
背 景	平成 26 年 4 月より、T S C の 2 階・3 階に展示やイベント会場として利用できるフリースペースが新設され、T S C 主催事業や市民の自主企画等の実施を通して、フリースペースの活用方法を検討してきた。今年度は、市民活動をさらに促進する場とするため、これまでの実績と市民の提案等を踏まえて、より多くの団体に講座・ワークショップ・展示・公開作業等で活用してもらい、利用しやすいフリースペースづくりの参考データを得る必要がある。
成果目標	年間に 12 団体以上が企画を実施し、フリースペースの活用等の事例が生まれる。
対 象	・市民活動団体・N P O／自治会・町内会／子ども会／生涯学習団体 ・共益団体／個人（地域貢献に関するもののみ）など
成 果	●団体の情報発信の場・市民が活動を行うきっかけとしての場の提供 ・T S C 主催のマネジメント相談に参加した団体が、その後の市民活動相談を通して、フリースペースでワークショップ、展示会を行った。自身の団体に適した活動の仕方を見出し、多賀城、塩釜でも活動を展開することに至った。 ・T S C 主催のイベントの参加者が自発的にグループをつくり、共通のテーマを通して市民同士が出会い、共感や交流を生むことができた。 ・5 団体が展示、講座、交流会、ワークショップを行う場としてフリースペースを活用した。 ・団体の企画に計 267 名の市民が参加した。市民がN P Oの活動や地域課題に触れるきっかけとなった。 ●T S C 及びフリースペースの周知 ・参加者 267 名の中には、フリースペースで開催された企画に参加するために初めてT S Cへ来館した方もおり、各企画はT S Cの認知向上にもつながった。
次年度に向けた課題	前年度と比べ、利用件数は 7 件減少した。次年度以降は、市内で活動する団体へ声掛けして情報発信の場として活用してもらい、多賀城での参考事例になりそうな市外の団体に活用してもらい、映画上映やトークショーなどフリースペースの使い方の幅が広がるような利用の仕方を示すことで、多くの市民が市民活動にふれるとともにフリースペースの活用を促すようにしていく。

【事業概況】フリースペース利用促進プロジェクト

●フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成 27 年 5 月から、2 階ギャラリーに Wi-Fi が設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネットをすることができ、情報収集・発信が可能となった。

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用できる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

○TSC 事業での利用

来館者に TSC の取り組みや NPO のことを知ってもらう場合やオープンな空間づくりを行う場合は、TSC 事業の会場としてフリースペースを活用している。



2 階 ギャラリー



3 階 交流サロン

●フリースペース利用状況

○通常の利用（利用表による集計）

	利用件数	利用人数
2 階ギャラリー	72 件	278 人
3 階交流サロン	76 件	213 人
計	150 件	491 人

○企画の利用（全 6 回）

・利用種別

展示	交流イベント	ワークショップ
4 回	2 回	2 回

※1 つの企画に複数の利用種別が含まれる場合や同一企画が複数回実施される場合も含む。

・利用場所区分

2 階ギャラリー	3 階交流サロン
4 件	2 件

○利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	心を癒す塗り絵展	フリースクール森遊～しんゆう～	5/14～15 (2日間)	・ストレスの軽減とコミュニケーションを取る機会をつくる。	・日頃のストレスを軽減するためにカラーセラピーの手法を使って、マンダラ塗り絵作品を展示して発表する。	3 階 交流サロン	見学 40 名
2	さをり織りワークショップ & 作品展	さをりひろば 余暇よか	8/7～8/9 (3日間)	・さをり織りの体験・展示を通じた普及。	・さをり織り体験会。 ・さをり織り作品展。	2 階 ギャラリー	体験 15 名 見学 20 名
3	読むだけじゃない！？本の交流会	読むだけじゃない！？本の楽しみ方	4/19～ (計 7 日間)	・本の好きな方との交流を通して、新たなつながりを生む。	・本の紹介。 ・読書会。 ・情報交換など。	2 階 ギャラリー	各回 3 名ずつ 21 名(推計)
4	第 58 回水道週間 特別展示「水道と防災」	多賀城市上水道部	6/2～6/7 (6日間)	・毎年 6/1～7 の「水道週間」に合わせて、水道にまつわる防災の取り組み・災害時の様子や備えについて、展示・アンケートを通じて、市民や利用者の防災への関心を高める。	・展示(防災・災害時の取り組みなどに関するパネルや実物の耐震管など) ・災害時の備えや防災の意識などに関するミニアンケート(協力していただいた粗品をプレゼント)	2 階 ギャラリー	見学 104 名
5	さをり織りワークショップ & 作品展	さをりひろば 余暇よか	10/6～10/10 (5日間)	・さをり織りの体験・展示を通じた普及。	・さをり織り体験会／参加費 500 円で糸巻きや模糸を入れて、自分流のタペストリーやランチョマットを作る。 ・さをり織り作品展／一部小物の販売をし、活動費の一部に充てる。	3 階 交流サロン	体験 1 名 見学 50 名
6	丘の上 FM 公開収録	丘の上 FM	3/26 (1 日間)	・CD ラジオを市民が手づくりする企画に、多様な市民を巻き込み、様々な人が情報発信の担い手になるようにする。	・ラジオの公開収録。	2 階 ギャラリー	参加・見学 16 名
計	6 件	5 団体	24 日間				のべ 267 名

●通常の利用の様子



少人数での打ち合わせ・ワークショップ

●企画の利用の様子

○展示



心を癒す塗り絵展
(フリースクール森遊～しんゆう～)



第 58 回水道週間 特別展示「水道と防災」
(多賀城市上水道部)

○交流イベント



読むだけじゃない！？本の交流会
(読むだけじゃない！？本の楽しみ方)



丘の上 FM 公開収録
(丘の上 FM)

○ワークショップなど



さをり織りワークショップ&作品展
(さをりひろば 余暇よか)

●TSC事業での利用の様子



地域人材育成「ハッピーママサロン」



「tag」創刊 50 号メモリアル展示会

I-3-3-5 Wi-Fi の利用状況

社会的に Wi-Fi によるネットワーク接続が普及している中、NPOでも情報収集・発信、インターネットで調べながらの事務作業、メンバーとの資料の共有といった場面でウェブを活用する機会が増えている。そのため、市民活動の拠点として機能するには Wi-Fi 環境の整備は不可欠である。TSCでも、平成 27 年 5 月 17 日より共同事務室と 2 階ギャラリーに Wi-Fi アクセスポイントを設置し、利用者がパソコンやタブレット端末を持ち込んで作業できるようになっている。

■月別利用件数 ※貸室やフリースペース利用時に記入する利用票により集計

件/ 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
H27		5	15	8	6	8	8	7	12	7	14	8	98
H28	9	14	14	13	2	17	25	18	22	12	19	11	176

平成 28 年度は、ID とパスワードを館内で公開したため気軽な利用が増えたこと、今年度に事務用ブースに入居した団体が定期的にブースで Wi-Fi を利用していたことが、利用の大幅増加につながった。

■場所ごとの利用件数

貸室

件/ 部屋	大会議室	301	302	201	第 1 和室	第 2 和室	101	計
H27	11	8	7	3	5	2	3	39
H28	6	28	18	18	2	2	1	75

301 会議室で定期的に Wi-Fi を利用する団体があり、貸室の中で最も利用件数が多い。また、Wi-Fi アクセスポイントが共同事務室と 2 階ギャラリーにあることから、アクセスポイントから離れた会議室（特に大会議室、第 2 和室、101 会議室）は接続しにくく、利用件数は低い傾向にある。接続環境を拡充していくことで、団体の報告会等でウェブや動画を見せながら活動を PR するといった使い方もできる。

フリースペース

件/ 部屋	共同事務室	2 階ギャラリー	3 階交流サロン	1 階ロビー	情報サロン	計
H27	10	36	7	5	1	59
H28	61	25	8	5	2	101

フリースペースでは共同事務室の利用が 61 件と最も多い。今年度から事務用ブースの利用が始まった団体が複数あり、定期利用により増加した。また、件数は減ったが 2 階ギャラリーで作業する利用者も多い。事務作業等を行う上で、Wi-Fi は不可欠な機能といえる。

■団体属性ごとの利用件数

件/ 属性	市民活動団体	自治会町内会	生涯学習団体	行政	企業	その他
H27	75	0	11	0	3	9
H28	130	1	31	0	3	11

市民活動団体が 130 件と最も利用件数が多い。これは今年度から事務用ブースを利用し始めた団体によるものが大半だと考えられる。また、会議室で活動を終えたあとにフリースペースへ場所を移動し、活動を続けるといった団体もあり、こうした定期利用団体が多くみられる。

I -4 事業実施状況

I-4-1-1

参加・育成事業 雑貨市

目 的	これまで市民活動に関わったことのない市民が、市民活動団体が販売する商品の購入や体験を通して市民活動に触れ、団体や活動を知ること。
背 景	今年度は新規来館者を中心に T S C の認知度を高め、今後の利用につなげるとともに、市民活動団体や来場者へのアプローチだけでなく、多様な主体が連携して地域課題を見つめる機会とするため、地元企業にもアプローチを図る。また、出展団体の情報発信力を高められる機会を提供する。
成果目標	・商品の「購入」が団体の活動や受益者の支援につながることを、アンケート回答者の 3 割以上に理解してもらうこと。 ・T S C への新規来館者を 150 名以上獲得し、T S C の認知度を高めること。 ・出展団体が自団体の活動を P R する方法を知り、雑貨市後も実践すること。 ・企業が出展団体との関係を構築し、市民活動へ興味関心を持つこと。
対 象	・雑貨に関心を持つ 20～40 代の女性、子どもと一緒に参加できるイベントに関心がある女性、または家族 ・多賀城または周辺の地元企業の C S R 担当者、社員
成 果	●多くの新規来館者が訪れ、雑貨市の趣旨を理解してもらうことができた ・アンケート項目「商品購入が支援につながること」について、149 名中 91 名 (61%) が理解できたと回答していることから、6 割以上の来場者へ市民活動に関わる機会を提供することができた。 ・来場者数はのべ 795 名（毎 30 分おきにカウント）。アンケート結果から 149 名中 61 名（41%）、出口調査から 170 名中 107 名（63%）が新規来館者であることが分かった。アンケートでの割合から計算すると 326 名が新規来館者と推定でき、T S C の認知度を高めることができた。 ●団体が自団体の活動紹介に力を入れるきっかけとなった ・雑貨市をきっかけに「活動の P R に力を入れたい」と話す出展団体が多く、情報発信の取り組みを考えてもらう機会を提供することができた。 ・前年度、雑貨市に出展した団体が、T S C が作成した「ありがとうカード」を参考にオリジナルカードを作成して、自団体のお店や雑貨市で使用していた。 ●雑貨市をきっかけに地元企業とのつながりが生まれた ・地元企業 10 社を訪問し、雑貨市を通して N P O や T S C のことを伝えることで関係を構築できた。その後、T S C の他事業への参加につながった。 ・企業向けに雑貨市ガイドツアーを実施。参加した 1 社が出展団体との対話を通し、自社のノベルティとしての活用を検討する機会をつくることができた。
次年度に向けた課題	・市民活動団体の出展や展示、当日のボランティアなど、雑貨市への参画の仕方が確立できた。今後は雑貨市だけに留まらず、T S C の事業間の連携により市民活動への幅広い関わり方を示す。 ・商品の売買のみに留まらず、対面販売の良さを生かし、団体同士のトークセッションなど団体と来場者との距離を近づけるようなしかけをする。 ・団体と企業をつなぐために団体、企業それぞれのニーズ把握が必要である。

【事業概況】参加・育成事業 雑貨市

●たがさぼの X' mas 雑貨市／事前説明会・交流会

日 時：①平成 28 年 9 月 25 日（日） 13:30～15:00

②平成 28 年 9 月 27 日（火） 19:00～20:30

※どちらか 1 日の参加。

※両日参加不可の団体へは個別対応。

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

対 象：当日販売、ワークショップをする出展団体

内 容：雑貨市の趣旨説明、今後のスケジュール説明、団体同士の交流

参加団体数：①6 団体 ②9 団体 別途対応：15 団体（計 30 団体）



事前説明会の様子

●市役所 1 階ロビー 展示

期 間：平成 28 年 11 月 21 日（月）～12 月 1 日（木）

会 場：多賀城市役所 1 階ロビー

内 容：雑貨市の告知、出展団体・商品の紹介、展示について、市役所を訪れる市民に向けて実施した。



市役所 1 階ロビー展示の様子

●たがさぼの X' mas 雑貨市

日 時：平成 28 年 12 月 4 日（日） 10:30～15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 全館

内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ、活動紹介展示、企業向け雑貨市ツアー など

参加費：無 料

定 員：制限なし／参加人数のべ 795 人（30 分おきにカウント）

出展団体：のべ 30 団体

◇：展示のみの参加団体…2 階ギャラリーでの展示

◆：当日運営の協力団体…T S C ブース運営の協力

○障がい者支援・福祉

コスモスホール（多賀城市地域活動支援センター）／多賀城

デイケア R e - C U R E（こころのクリニックみどりの風）／多賀城

レインボー多賀城（社会福祉法人臥牛三敬会虹の園）／多賀城

パープル・アイリス／多賀城

◇さくらんぼ（社会福祉法人嶋福祉会）／多賀城

◇ココロのびのび★プラネット／多賀城

◇ハッピーピース／多賀城

アトリエ・ソキウス（NPO 法人ソキウスせんだい）／仙台



3 階 301・302 会議室の様子



3 階交流サロンの様子

ポッケの森（社会福祉法人ぽっけコミュニティーネットワーク）／仙台
 NPO法人アートワークショップすんぷちょ／仙台
 いずみ授産所（社会福祉法人愛子福祉会）／仙台
 メルヴェイユ仙台（NPO法人創の会）／仙台
 一般社団法人盲導犬総合支援センター／仙台
 コッペ（NPO法人麦の会）／仙台
 リボンヌ手芸部Miyagi／仙台

○国際交流・協力

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城
 NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台
 アフリークソレイユ／仙台
 シャプラニール仙台・ボンドウの会／仙台

○子育て・子ども支援

家庭文庫「ちいさいうち」／多賀城
 ◇まんどろスマイル／多賀城
 ◇多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」／多賀城
 ◆多賀城市ジュニアリーダー「エステバン」／多賀城
 森のようちえん 虹の森／仙台

○まちづくり

◆T r u s s（トラス）／多賀城
 たがじょう転入組／多賀城
 生涯学習100年構想実践委員会／多賀城

○動物愛護

マオメオ・キャットクラブ／仙台

○スポーツ・医療・健康

ハンドリフレの会／多賀城

○文化振興

◇多賀城将棋ラボ／多賀城



2 階ギャラリーでの展示の様子



2 階和室でのワークショップ
（絵本読みきかせ）の様子



1 階エントランスでの
ワークショップの様子



1 階エントランスでの
出口調査の様子

【添付資料】事前説明会資料、来場者アンケート集計結果、出店者アンケート集計結果、チラシ

I-4-1-2

参加・育成事業 NPO いちから塾

目的	・ NPO の基礎知識を身につけ、市民活動に対する理解を深める。 ・ NPO いちから塾の受講を契機として、市民活動やボランティアへ参加する。 ・ すでに市民活動している団体が新たな取り組みを始める。
背景	前年度まででは、参加者の一部は自己実現に向けて活動を始めたり、TSC に定期的に来館し情報収集をするようになった。 今年度は、参加者の交流の時間を長く取ったり、気軽に話しやすい雰囲気をつくることで、互いの活動や想いの共有をできる場とする。また、講座後に再度集まり、その後の変化や情報交換する場を設ける。 加えて、出前講座は、団体のスタッフ研修としてのニーズがあるので、前年度に引き続き市内及び近隣市町の企業、学校、生涯学習団体、町内会などへのチラシの郵送、団体へ出向いての直接アプローチをしていく。
成果目標	・ NPO の基礎やその役割など、NPO に対する知識を深めて、講座の理解度を 5 段階評価で平均 4.5 以上となる。(講座終了後のアンケートによって集計) ・ 自分自身の興味関心事についての気づき、市民活動の事例や情報をきっかけに、市民活動やボランティア活動への行動をとる人を 5 名以上輩出する。 ・ 市内の公共施設や企業などで出前講座を 3 回以上実施し、TSC の来館者以外にも NPO の知識を広め、身近な地域と協働することの意識を育てる。 ・ すでに市民活動を行っている団体が、他団体と連携して活動するようになったり、新たな取り組みを始めたりするようになる。
対象	・ NPO やボランティアに興味があり、活動に参加したいと思っている方。 ・ 既に活動はしているが、NPO への理解が不足している方、さらに活動を広げていきたいと考えている方。 ・ 社会貢献の視点を持った人材の育成を考える企業や学校の他、自分達のスキルを地域に還元したいと考える生涯学習団体や町内会などの地縁団体。
成果	・ 理解度が平均 4.39 だった。成果目標には達しなかったが、NPO の基本的な知識や事例を学ぶ機会を提供できた。 ・ 参加者の交流の時間をとり、想いを共有する場をつくったことで、新たに 2 つの取り組みが生まれ、4 名が市民活動に関わりはじめたり、現在の取り組みを広げていった。 ・ 高校、市役所へ出前を実施し、多様な人に NPO を身近に感じてもらった。 ・ すでに活動している人たちが連携して情報発信の取り組みをはじめた。
次年度に向けた課題	・ 理解度が平均 4.39 で目標未達。上・中・初級編のように、対象によってプログラムを変えることも検討する。 ・ 雑貨市等で関係性を築いた企業、地域づくり基礎調査で関係性を気づいた町内会に対してアプローチする。

【事業概況】参加・育成事業 NPOいちから塾

●NPOいちから塾について

- ①開始あいさつ（5 分）
- ②NPOいちから塾（40 分）
 - ・ NPO の成り立ちやその仕組み
 - ・ NPO の事例紹介
- ③たがさぼガイドツアー（30 分）
 - ・ たがさぼの活用方法を紹介
- ④ワーク（15 分）
 - ・ あなたの興味関心はどこに？チラシを用いたワーク
- ⑤交流タイム（20 分）
 - ・ 参加者同士の交流を通して想いを共有しよう
- ⑥質問、まとめ、アンケート（10 分）



たがさぼガイドツアーの様子

第 1 回	日 時：平成 28 年 7 月 15 日（金） 19:00～21:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：4 名
-------------	---

第 2 回	日 時：平成 28 年 10 月 29 日（土） 13:00～15:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：5 名
-------------	--



参加者の想いについてフリートークタイム

●出前講座について

TSC 内で実施する講座以外に、市内の公共施設や企業などで、出前 NPO いちから塾を実施し、TSC への来館者以外にも NPO の知識を広める。

出 前 講 座 ①	日 時：平成 28 年 4 月 25 日（月） 10:00～11:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室 参加人数：4 名 対象者：ハッピーピース
-----------------------	--

出 前 講 座 ②	日 時：平成 28 年 11 月 8 日（火） 1 回目／13:20～14:20 2 回目／14:30～15:30 会 場：宮城県多賀城高等学校 参加人数：8 名（1 回目／3 名、2 回目／5 名） 対象者：多賀城高校生徒 ※NPO 法人ハーベスト「キャリアセミナー」を活用
-----------------------	---



多賀城市職員向けの出前講座の様子

出 前 講 座 ③	日 時：平成 29 年 2 月 5 日（日） 9:15～10:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 1 階 情報サロン 参加人数：1 名 対象者：個人（多賀城将棋ラボ 出原卓朗）
-----------------------	--

出前講座④	日 時：平成 29 年 2 月 21 日（火） 17:30～18:10 会 場：多賀城市役所 B101 会議室 参加人数：20 名 対象者：多賀城市役所保健福祉部社会福祉課	
-------	---	--

アンケート集計結果

●参加者分析全 6 回 総数 29 名（※多賀城高校、多賀城将棋ラボはアンケート未実施のため集計せず）

①性 別

男 性	女 性	合 計
20 名	9 名	29 名

・通常いちから塾 2 回の講座では合計 9 名（男性 6 名、女性 3 名）の参加があった。

②年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～
6 名	5 名	9 名	6 名	3 名

・全参加者の内、現役層である 20 代～40 代の受講者は 20 名で、全体の 68.9%を占めた。

③住 所

多賀城市	塩釜市	利府町・七ヶ浜町・松島町	仙台市
6 名	2 名	1 名	0 名

・第 1 回、2 回通常講座の参加者のみ集計

④講座理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	未記入	平均理解度
15 名	10 名	2 名	1 名	0 名	4.39

・平均理解度は 4.39 であった。

⑤講座の感想

- ・NPOの基本的概念（利益をあげてもいいが、出資者に還元するのではなく、今後の活動等に使う）が学べたので良かったです。
- ・理解のレベルがちがうと参加者によってはもの足りなかったり、もっと聞きたいとなったりするかも。上、中、初級編で取り組んでもよいかも。
- ・（NPOは）法人にこだわらなくてよいという事が理解できました。
- ・NPOについて今まで、やんわりとしたイメージでしたが、くわしく学ぶことができました。ありがとうございました。

【添付資料】チラシ、配布資料

I - 4 - 1 - 3

参加・育成事業 地域人材育成

目的	同じ立場の人同士の共通したテーマでの対話を通し、自分達の困りごとを市民活動として解決する方法を考える。その過程を通して、地域課題を解決する担い手を育成することを目的とする。
背景	平成 27 年度に実施した企画では、同じ立場ならではの「共通」課題を持つ参加者や既活動者がつながり、課題の解決に向けた新たな取り組みが生まれた。今年度は前年度のノウハウを活かしながら、地域課題解決の担い手育成を目指し、従来よりも多賀城の地域課題解決につながるテーマを設定する。同じ立場の人同士の共通したテーマでの対話を通して、参加者が自分たちの手で課題を解決できることに気付き、行動を起こす機会をつくる。
成果目標	- 参加者が自分の困りごとを、自らが市民活動として解決できることに気付く（講座後のアンケートを指標とする） - 各テーマから 1 つ以上の新しい取り組みが生まれる
対象	- 自分自身が困りごとを抱えていて、その困りごとを同じ立場の人と解決したいと考えている人。また、解決につながる取り組みを始めることに興味がある人 - 地域との接点、人とのつながりを求めている人
成果	●参加者が、自身の困りごとを市民活動として解決できることに気付いた 具体的には「今まで受け身だったが自分から動いてみようという思いが出てきた」「できない、やれないではなく、やりたいことを口に出してみることから始めたい」などの感想が寄せられた。 ●講座後も継続的な取り組みを実施。市民活動への参加にもつながった ○テーマ：転入者 「たがさぼの X'mas 雑貨市」に出展し、転入者が多賀城市民から多賀城の地域情報を教わった。その情報を地図上にまとめ、新たに転入してくる人へ向けて展示を行った。（会場：多賀城市役所） ○テーマ：地域での子育て - ママ同士のお話を開催。具体的な子育ての悩みの解決につながった。 ○テーマ：セカンドライフ - 参加者のうち 1 名がこども食堂の活動に参加した。
次年度に向けた課題	●フォローアップにつなげるため、講座後に交流会を開催する 現状では「単発の講座＋フォローアップの集い（後日任意参加）」という形で進めており、講座のみの参加者への継続的なアプローチが難しい。地域人材を育成するためには、関係性を築く時間や、考えを深める時間が必要である。任意参加のフォローアップの場合、参加が各々の意志に委ねられてしまうため、参加者が集まらないこともある。今後は、講座終了後に交流の機会を設けることで、次のフォローアップにつながる関係性を生むことや、参加者のニーズを汲み取る機会をつくる。

【事業概況】参加・育成事業 地域人材育成

第
1
回

●ようこそ！たがじょうカフェ

- ・日 時：平成 28 年 7 月 9 日（土）13:00～15:30
- ・会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー
- ・目 的：
 - ・転入者ならではの困りごとを自分達の手で解決する方法があることに気付くこと
 - ・参加者自身が、転入者という立場から地域について考えること、課題の発信や解決につながる行動を起こすことが、転入者の暮らしやすさにつながるという気付きを得ること
 - ・転入者同士がつながりを持つことで、今後取り組みを始める関係性を築くこと。転入者にとって住みやすい多賀城について考えることを通して、地域と関わりを持つきっかけを見つけること、具体的な取組みのイメージを持てるようになること。

- ・テーマ：転入者
- ・対 象：多賀城市内に転入してきて、おおむね 2 年以内の方
- ・内 容：ゲストによる活動紹介

ワーク＆トークタイム

「自分たちのためのミニ企画を考えてみよう」

- ・ゲスト：大山宗之氏 田代智志氏
(WE SENDAI 転勤族チーム共同代表)

- ・参加費：500 円

- ・定 員：15 名／参加人数 6 名

○講座後の集まり

- ①平成 28 年 8 月 27 日 顔合わせ・やりたいことの話し合い
/参加者 4 名
- ②平成 28 年 10 月 23 日 マップづくりの計画/参加者 2 名
- ③平成 28 年 11 月 26 日 「たがさぼの X' mas 雑貨市」
出展準備/参加者 1 名
- ④平成 28 年 12 月 4 日 「たがさぼの X' mas 雑貨市」出展
(情報収集) /参加者 2 名
- ⑤平成 28 年 12 月 18 日 マップ作製準備/参加者 3 名
- ⑥平成 29 年 2 月 26 日 マップ作製/参加者 3 名
- ⑦平成 29 年 3 月 20 日 学生団体「Truss」とマップ作製
/参加者 1 名



ゲストによる活動紹介



ワーク＆トークタイムの様子



マップ作製の様子

2 回	●ハッピーママサロン「わたしの子育て」から「地域の子育て」へ ・日 時：平成 28 年 10 月 22 日（土）10:00～12:30 ・会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー ・目 的： ・ママたちが日頃感じる困りごとや不便さは自分達で解決できること、またその方法を伝えることで、困りごとを自分達で解決していく人を増やすこと ・地域との接点の持ち方や地域での活動の始め方を知ることで、地域ぐるみで子育てを行う環境づくりを、ママの視点でママが始めるきっかけを生む ・ママ同士がつながりを持つことで、今後取り組みを始める関係性を築くこと ・テーマ：地域での子育て ・対 象： ・小学生までの子どもを持つ女性（ママ同士の集まる場所や機会など、自分たちが必要な場所を作りたいと考えている人） （地域との関わりを持つ必要性を感じているが、関わり方がわからない・1 歩目を踏み出せない人） ・地域の中での子育てに関心がある、必要性を感じている孫の世話をしている女性 ・内 容： - ゲストによる活動紹介 - ワーク&トークタイム - テーマ「子育てをされていて感じること、これから始めてみたいこと」 ・ゲ ス ト：眞野美加氏（新田 mama＊cafe 代表） ・託児団体：多賀城市家庭教育支援チーム あんだんて ・参 加 費：無料（託児希望の場合は、お子さん一人につき託児料 500 円） ・定 員：15 名／参加人数 10 名 ○講座後の集まり ①平成 29 年 1 月 14 日 想いの共有/参加者 2 名 ②平成 29 年 2 月 4 日 お話し会 テーマ「こどもの食の安全について」参加者/2 名 ③平成 29 年 3 月 25 日 お話し会 テーマ「子育てのストレスについて」参加者 3 名	 ゲストによる活動紹介  ワーク&トークタイムの様子
----------------	--	---

第 3 回	●55 歳からのセカンドライフ講座 ・日 時：平成 29 年 2 月 25 日(土) 9:30～12:00 ・会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー ・目 的： ・参加者が既活動者の事例や活躍の形を知ること - 退職後の活動のイメージを具体的に持てるようになること ・参加者が自身のスキルや興味関心を挙げ整理すること、それに対して講師・TSC が地域での活動の仕方を提案することで、自分が地域で活動するイメージを具体的に持てるようになること ・テーマ：セカンドライフ ・対 象：退職後のことを考えたい 55 歳以上の方 ・内 容：ワーク「自分自身の棚卸」 ゲストによる事例紹介 講座「セカンドライフの踏み出し方」 ・アドバイザー：小林正夫氏 (仙台市市民活動サポートセンター シニア活動アドバイザー) ・ゲスト： ・佐々木啓通氏 (多賀城市家庭教育支援チームあんだんて 代表) ・大友みどり氏 (高崎こども食堂 らっこ広場 副代表) ・参加費：500 円 ・定 員：15 名/参加人数 11 名	 ゲストによる団体活動の紹介  参加者同士の想いの共有
-------------	--	---

アンケート集計結果

●参加者分析

全 3 回／計 27 名（※①～③は申込受付情報より）

①性 別

男 性	女 性
7 名	20 名

○テーマ別

	男 性	女 性
転入者	1 名	5 名
地域での子育て	0 名	10 名
セカンドライフ	6 名	5 名

・第 2 回目は、子育て中の女性を対象とした講座を実施したことから、女性の参加が多い結果となった。

②年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
2 名	4 名	6 名	8 名	5 名

- ・子育て世代や 50 代以降の人を対象とした講座を開催したことから、20 代～60 代までの方の広い参加があった。

③住 所

多賀城市	仙台市	塩釜市	七ヶ浜町	松島町
18 名	3 名	2 名	2 名	1 名

④イベントをどこで知ったか

スタッフより	チラシ	広報多賀城	口コミ	イベント
11 名	9 名	6 名	1 名	1 名

○チラシを見た場所

【市内】市役所、図書館、生協、保育所、市民プール、飲食店、地域職業相談室

○イベント

【市外】ママを対象とした講座

- ・多賀城在住の参加者は 18 名で、全体の 69%を占めた。多賀城市在住の方を対象とした講座や、多賀城市内施設・店舗を中心に広報を行ったことで、多賀城市民の参加につながった。

⑤参加者の感想の傾向

○テーマ：転入者

「同じ多賀城にきたばかりの人と話せてよかった。多賀城に来てよかった。」「今まで気が付かなかった多賀城のいいところや特色が分かった」のように、地域を知り、人と接点を持つきっかけになったといった感想が多かった。

○テーマ：地域での子育て

「一人での子育てにならないように、ママ達は何をやりたいかを話すことで、何ができるか見つかるかも知れない」「自分が困っているから自分で道を切り開く、という姿勢を学んだ」のように、困りごとは自分や周りの人と解決できることに気付いたといった感想が多かった。

○テーマ：セカンドライフ

「同年代、同じような思いを持った人たちとの触れ合いが貴重だった」「まずは一歩踏み出すことが大切だと学んだ」のように、同じ立場の人の想いを聞くことで、自分の考えを深め、一歩踏み出すきっかけになったといった感想が多かった。

【添付資料】チラシ、配布資料

I -4-2-1

自治活動支援事業 地域づくり実践塾

目 的	・ 地域のため、社会のために「何かしたい！」という想いを持つ受講者が“何か”を見つけ、それを実現するまでの道筋を考える。 ・ 上記の想いを持つ受講者が集い語り合う場を提供し、共感や刺激を生む環境を作り出す。その中で想いを具体的なものとしていき、実現性を高める。これらを通して、自らの想いや考えをカタチにし、行動・実践する人を育む。
背 景	・ 平成 27 年度に同じ内容の事業を実施している。その結果、事業が目指す当初の目的(受講者が想いを整理し、行動を起こす際の計画を立てる)を越えて、受講者が講座実施期間中に認知症カフェの実施や、講座終了後すぐに起業するなどの行動があった。以上から活動者の発掘や育成に有効な事業と考えられる。 ・ 平成 28 年度も前年に引き続き同様の効果・有効性を望み実施する。また今年度は新たに『受講生が積極的に活動していこう』という想いに深化するための支援を検討・実施する。
成果目標	・ 受講者の半数が発表会で地域の人たちに想いを発信する。 ・ 受講者のなかの 1 割が自分の想いを達成するため、活動を継続する。 ・ 受講者同士のつながりが講座後も何らかの形で続いている。 ※上記を通し、多賀城発で地域に適した活動の芽を育んでいく。
対 象	・ 「何かをしたい！」と思っているが、その「何か」がまだ定まっていない方。 ・ やりたいことは見えているが、具体的な実現の方法が分からないという方。 ・ 地域をより良くするため、自分自身が何かしたいと考えている方。 ※多賀城市で活かせる活動であることを前提とする。なお、年代は問わない。
成 果	・ 受講者 9 名中 6 名が発表会を通して想いを発信できた。 ・ 受講者 7 名が想いを達成するため、活動や行動を継続または継続予定。 ・ 平成 29 年 6 月に受講者が運営に関わるイベントを計画中、他の受講者にも出展などで参加を促す予定。
次年度に向けた課題	・ 本事業は平成 28 年度で 2 回目の実施となる。内容は平成 27 年度と同様に約半年間に全 5 回の連続講座と、今回初の試みとして実際の活動に必要な知識やノウハウを学ぶ単発の講座を 2 回実施した。どちらの講座も個々の内容で受講者から高い満足度を得られた。しかし単発講座の役割で設定した『連続講座受講者へ知識やノウハウを伝える』に関しては、連続講座の実施期間中に受講者が求めることを把握するには時間が足りず、ニーズを汲み上げきれなかった。 ・ 連続講座では受講者のやりたいことが地域や社会の課題につながっていて、その解決を図るものもあった。ただ、その活動をソーシャルビジネスとして自身の生業にしたいと考える受講者も見られた。地域や社会の課題を解決しながら活動者も生活できる糧を得たいというニーズにも応えられる講座内容の構築を行い、様々な市民を支援できる体制を整えたい。 ・ 本事業終了後も、受講者が自分自身で見つけた“やりたいこと”に対し継続して取り組むため、T S Cとしてどのような支援を実施していくか、考えなければならない。

【事業概況】自治活動支援事業 地域づくり実践塾

●講座タイトル

- ・TAGAJ0 Future Labo 2nd season ～多賀城未来実験室～（全 5 回連続講座、以下 TFL2）
- ・Social Essence 講座（単発講座：2 回実施、以下 SE 講座）

●実施概要

本事業は、平成 28 年度で 2 回目となる継続事業である。内容は平成 27 年度同様の 5 回連続の講座を通し、受講者のやりたい事をカタチにしてゆく“地域づくり塾”と認識されてきているものが 1 つ。更に平成 28 年度は実際の市民活動に役立つ知識やノウハウを伝える講座も併せて開催する。

(1)TAGAJ0 Future Labo 2nd season ～多賀城未来実験室～（全 5 回連続講座）の実施内容

- ・オリジナルのワークシートを用いた【想いを整理するワークショップ】
- ・既活動者の元に足を運び、現場の臨場感を受けながら活動の話を伺う【エクスカージョン(体験型見学)】
- ・様々な意見をもらい想いを更に整理しながら、受講者同士で共感を得るための【ディスカッション】
- ・受講者の想いや考えを広く発信し、人や地域との新たなつながりをつくるための【マイアプローチ発表会】
- ・受講者同士の交流や地域を知るため、本講座開始前に小規模イベントの実施(平成 28 年度初の試み)

以上の 5 つを盛込んでいる。

実施概略

事前説明会（全 2 回）…参加者 5 名

○本 講 座（連続 5 回）…受講者 9 名

○プログラムアドバイザー（事例紹介や相談、事業内容を外部の目で見て助言をいただく役）として、合同会社 fluir 代表／七ヶ浜町観光協会副会長の久保田靖朗氏をお招きした。なお、プログラムアドバイザーは全 5 回の講座に全て出席いただき助言や協力を仰ぐ。

○本講座は 5 回セットで 1 つとし、完結する内容である。

○1 回当たりの講座時間はその時々によるが 3～4 時間である。

○参加費は全回無料で実施。

○受講者同士の交流を促し、更には地域のことを知る機会として、本講座前に小規模の参加型イベントを実施する。



（プログラムアドバイザー／久保田靖朗氏）

第 1 回	● 想いを整理するワークショップと受講者同士の ディスカッション 日 時：平成 28 年 7 月 16 日(土) 13:00～17:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 101 会議室 講 師：久保田靖朗氏（合同会社 fluir 代表／七ヶ浜町観光協会副会長） 受講者：9 名(定員 10 名) 内 容：受講者の想いを整理し、受講者同士が互いに想いを語り合 うことで思考を深め、関係性を構築する。 ①プログラムアドバイザーより『社会的な活動とは？』(30 分) ②想いを整理するワークショップ (90 分) ・「想いを整理するワークシート」へ記入。(受講者個別で行う) ・記入した内容をグループでディスカッション。 ③ディスカッションタイム (60 分) ・ワークシートに書いた内容を元に受講者全員が現在の想いを 順番に発表。	 (グループディスカッションの一コマ)
第 2 回	● エクスカーション in 七ヶ浜&利府 (2 部構成) 日 時：平成 27 年 9 月 17 日(土) 10:00～16:30 (移動時間込み) 会 場：【第 1 部】七ヶ浜中央公民館 和室 《交流を兼ねた昼食会》 【第 2 部】利府西部児童館『りふ〜る』 ゲスト：【第 1 部】十色めぐみ氏（セラピスト「Toiro Works」／主宰） 【第 2 部】高橋和恵氏（利府西部児童館「りふ〜る」／館長） 受講者：6 名 内 容：活動現場に赴き、ゲストから体験談などを伺う。 ①エクスカーション in 七ヶ浜 (90 分) ・活動を始めたキッカケと、地域に密着した取組みの紹介。 ・自分のやりたいことを見つめるワークショップ。 ②みんなで昼食会 (60 分) ・受講者の交流を兼ねた昼食会(食事代は受講者負担)。 ③エクスカーション in 利府 (90 分) ・西部児童館の館内巡り。 ・活動を始めたキッカケを様々な体験談と共に伺う。	 (第 1 部ゲスト 十色めぐみ氏)  (第 2 部ゲスト 高橋和恵氏)

第 3 回	● 中間報告ディスカッションとエクスカーショ in 塩竈 《ゲストの活動現場を知る『まち歩き』も実施》 日 時：平成 28 年 10 月 15 日(土) 11:00～16:30 (昼食時間含む) 会 場：ふれあいエスプ塩竈 ゲスト：狩野真由美氏（合同会社トリプルワンアクト／代表） 受講者：4 名 内 容：受講者の進捗確認と既活動者の体験談を伺う。 ①塩竈のまち歩き (60 分) ・ゲストが活動している場所を知るまち歩き(自由参加) ②受講者同士のディスカッション (150 分) ・受講者それぞれの進捗（実現したいことを探す、実際に行動するなど）をワークシートの内容を元に順番で話す。 ・話の聞き手は、感想や意見などを話し手へ順番に返答する。 ③エクスカーション (60 分) ・ゲストの活動内容紹介と、活動の際の心構えを聞く。	 (受講者ディスカッションの様子)
第 4 回	●エクスカーション in 多賀城と 想いをまとめるディスカッション&発表会へ向けての準備 《ゲストの活動を知る『ガイドツアー』も実施》 日 時：平成 28 年 12 月 19 日(土) 11:00～17:00(昼食時間含む) 会 場：タガの柵 ゲスト：松村正子氏（タガの柵／主宰） 受講者：4 名 内 容：受講者自身の想いのまとめと発表会に向けての準備 ①タガの柵の活動を知る、多賀城史跡ツアーガイド(60 分) ・ゲストの活動内容を体感するミニツアー（自由参加） ②ゲストの松村正子氏より(60 分) ・ゲストの活動内容説明と、活動実態を伺う。 ③受講者同士のディスカッション (130 分) ・3 回目から 4 回目にかけて想いの整理や実現に向けて、どのような行動をしたか、どのような計画を立てたかなどを受講者同士で共有し、話し手の内容に対する意見やアイデアなどを聞き手が順番に返答し、さらに想いを深掘りする。 ④発表会についての説明 (20 分) ・発表の方法は自由形式とする。 ・完全な自由では想いをまとめ難いことも考慮して、発表用シートを用意した。シートは受講者の進行具合を考慮し、2 つの内容を準備した。	 (ゲストの松村正子氏)  (受講者ディスカッションの一コマ)

● 受講者によるマイアプローチの発表とゲストトーク、発表者・

聴講者・ゲストを交えた交流会

ゲスト：渡邊晃氏（株式会社 season／代表取締役）

日 時：平成 29 年 1 月 21 日（土）13:00～17:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

参加者：発表者…4 名、資料提出による発表 2 名、計 6 名

聴講者…19 名（定員 30 名）

内 容：受講者による【マイアプローチ発表会】を実施

○受講者の方々が、講座を通して見つけた『何かしたい！』という想いの中心となる“何か”の部分を【マイアプローチ】として広く発信する。

○『広く発信』するため、発表会は「受講者の想いを聞いてみたい」という人達を“聴講者”として募集する。

①受講者によるマイアプローチ発表（100 分）

- ・発表方法は受講者（発表者）に一任して実施。
- ・受講者自身は欠席したが、事前に動画を作成し発表する方もあった。
- ・受講者の発表後は 1 名ずつ終了する毎にプログラムアドバイザーとゲストから内容の感想をいただいた。

②既活動者によるゲストトーク（40 分）

- ・ゲストの活動内容と、活動を通して気が付いたこと。
- ・大切にしている想いや考え方の紹介。

③プログラムアドバイザー総評（20 分）

- ・これからの地域や社会はどう変わっていくか未来予測。
- ・その未来に受講者の行動がとても大切であるとの激励メッセージ。

④交流会（60 分以上）

- ・発表者と聴講者、ゲストを交えた交流の時間。



（発表の様子）



（受講者の発表を聞く聴講者の様子）



（交流会の様子）

(2) Social Essence（単発講座：2 回実施）の実施内容	
第 1 回	● Social Essence 講座 ～ソーシャル・セクター概論～ 日 時：平成 28 年 11 月 12 日(土) 13:30～15:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 101 会議室 ゲスト：佐藤賢氏（NPO 法人ピースジャム／代表） 受講者：7 名(定員 10 名) 内 容：市民活動に関する知識を蓄え、ゲストの話聞くことで活動の実態を感じつつ、想いを深める講座。 ①ソーシャルな活動とは？（30 分） ・ T S C スタッフが講師となり、市民活動についての制度や知識などを伝える講座。 ②実践者から学ぶ『活動体験を聞いてみよう！』（60 分） ・ ゲストの活動内容を伺い、ゲストが大切にしている信念や、活動に至るまでの想い、これからの活動のビジョンを通して、社会や地域の変化に対応する心構えを伝えていただいた。 ③質問タイム（20 分）
第 2 回	● Social Essence 講座 ～惹きつけるチラシデザイン講座～ 日 時：平成 29 年 2 月 11 日(土・祝) 13:30～15:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 講 師：スガワラタカユキ氏（checkmate design／代表） 受講者：20 名(定員 15 名) 内 容：市民活動に関連する技術やノウハウを伝える講座。今回は情報発信手段の 1 つチラシについて、見た人が思わず手に取ってみたいくなるチラシデザインの基礎を学ぶ。 ①覗いてみよう！デザインの世界（座学：40 分） ・ チラシ作りのポイントとなる考え方(目的の整理、チラシの方向性、書体の選び方、色の選び方)を学ぶ。 ②実践！伝わるデザインのつくり方（ワークショップ：90 分） ・ あらかじめ用意したチラシの素材を、座学の内容をもとにグループワークで貼り付けながらチラシを作成する。 ・ 自分が作りたいチラシのラフデザインを作成する個人ワーク。作成したラフデザインは任意で講師に見てもらってもできる。



(受講者と対話するゲスト)



(受講者の質問に答える講師)

参加者の状況分析

●はじめに

- ・実施内容の性質から、TFL2 と SE 講座は区分する。

【TAGAJO Future Labo 2nd season ～多賀城未来実験室～】

- ・本事業の参加者は『連続講座受講者』と『発表会の聴講者（5 回目のみ）』に区分する。

●連続講座受講者（9 名）の傾向

◆性 別

男 性	女 性	合 計
1 名	8 名	9 名

- ・前年度は男女比に大きな差は見られなかったが、TFL2 では女性の割合がとて多くなっている。

◆年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	不明
2 名	3 名	1 名	1 名	1 名	1 名

- ・前年度と同様に 20 代や 30 代からの申込が多くなっている。

◆住 所

多賀城市	七ヶ浜町	塩釜市	仙台市	大河原町
5 名	1 名	1 名	1 名	1 名

- ・多賀城市在住の参加者が最も多く、その他の地域からは各 1 名ずつの参加であった。

◆講座への出席状況（受講申込 9 名）

1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目
9 名	6 名	4 名	4 名	4(+2)名

- ・講座申込は 9 名であったが、2 回目以降に仕事や学業が多忙とのことで 3 名から休講の申し入れがあった。
- ・5 回目の発表では 4 名の受講者が直接発表し、残りの 2 名が都合により会場には来られず、スタッフの代読や動画による発表であった。

●発表会（5 回目）を聞きに来た方（聴講者）の傾向（聴講者 19 名中アンケート回収 15 名）

◇年 代

20 代	30 代	40 代	50 代
2 名	5 名	5 名	3 名

- ・30～40 代の参加者が多くなっている傾向が見られる。

◇満足度（5 段階評価）

5（満足）	4	3（普通）	2	1（不満）	回答なし
8 名	4 名	2 名	0 名	0 名	1 名

- ・アンケートを提出いただいた方の半数以上から満足であるとの評価いただいた。満足度の平均は 4.4 である。

◇発表会に関するご意見・ご感想

- ・市民活動をしていく「過程」を知ることができる貴重な時間だった。また多賀城市市民活動センターの存在を知る機会にもなり視野が広がった。
- ・実際に目標を持ち行動しようとする発表者の方々の話や、ゲストの志を持つ大切さの話を聞き、自分ももう一度目標とするものを明確にしていきたいと思った。
- ・“市民活動”の事例を初めて直接お聞きし、大変勉強になりました。心が動き始めています。

●講座分析

- ・前年度と同様に 20 代～30 代の申込が半数を超えていて、地域に根差して活動を考えている若い世代が少なくないことが伺える。
- ・平成 28 年度の傾向では男女比に特徴があり女性の受講者がとても多く、更にやりたいこととして掲げたテーマは子どもや、子育て中のママを対象とした内容が多く見受けられた。こうした“地域に根差す小さな活動”をしたいと考えるのは女性がより積極的かつ行動的であると予測できる。
- ・講座への出席率や、受講者の想いを整理してやりたいことを見つけ、計画立案までの過程がどのように推移したかを見てみると、約半数程度の継続出席と発表会での発表となっている。この傾向は前年(平成 27 年)度と同様だが、欠席の理由は仕事や学業など受講者の生活や将来に関わる要因である。また事前に欠席の旨をご連絡いただけたことは、講座の組立てで受講者と運営スタッフの心理的距離が近づくようグループディスカッションに運営スタッフが加わるなどの効果だと考えられる。
- ・受講者の住まいでは多賀城市が最も多くなっている。近隣の市町からも 1 名ずつの申込をいただいていることから「地域や社会のために何かをしたい」、「自分の特技を地域や社会に生かしたい」と考えている方々の潜在率は低いと考えられる。

●受講者のやりたいこと(発表内容)概略

1) 『こどもを描く画家』

→自分の“やりたいこと”と向き合い続けた結果辿り着いたテーマである。目標は自分の書いた絵を見た人に笑顔になってもらうこと。

2) 『市民ライター』

→まちの情報や出来事を市民目線で発信する活動をやってみたい。

3) 『子育て円まんサロン』

→ベビーマッサージから発展させた親子が触れ合うことの大切さを伝える“なでなで子育て”を実践していく。

4) 『写真で人に喜びを、子どもたちの表現の場を』

→自分の得意スキルである写真と子育て中のママという視点を活かし、フリーのカメラマンとして活動をはじめたい。

5) 『きりり☆ママ TERRACE』

→ママとして子育て期間に孤独だった経験と自分の持っているセラピストの資格などを活かして、ママたちが興味や関心ごとで集まれる場を作りたい。

6) 『今日の食から未来へつなぐ』

→自身の闘病とその改善方法の体験を元に、体が喜ぶ！安心・安全な食べものの販売を行いたい(平成 29 年 10

月からスタート予定)

●新たに生まれた活動の芽と今後の動き

- ・『子育て円まんサロン』は講座中の平成 28 年 12 月から七ヶ浜で活動を開始。毎月 1 回程度のペースで継続実施の予定。
- ・平成 29 年 3 月 4 日(土)に平成 27 年度に講座を受講された方々と平成 28 年度に講座を受講された方々を対象とした懇親会を実施。今後、受講者同士の交流とコミュニティ形成を育むものである。なお平成 29 年 4 月には受講者の方が企画した懇親会も立ち上がっている。
- ・平成 29 年 6 月に受講者有志を巻き込んだ、子育てママを対象としたイベントを開催予定。

【Social Essence 講座】

- ・講座の参加者は 2 回合わせて 27 名であった。その内アンケートの回収は 26 枚である。

●受講者の傾向

◆性 別

男 性	女 性	合 計
10 名	16 名	26 名

- ・男女比でみると、2 : 3 程度の割合で女性の受講が多い傾向が見られる

◆年 代

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	不明
4 名	3 名	4 名	3 名	8 名	3 名	1 名

- ・幅広い年齢層の参加をいただけた。その中でも 50 代の参加が最も多くなっている。

◆住 所

多賀城市	仙台市	七ヶ浜町	塩釜市	岩沼市	利府町	柴田町	大河原町	富谷市	栗原市
10 名	5 名	2 名	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

- ・多賀城市在住の参加者に最も多くご参加いただいた。また、様々な地域の方々にお集まりいただいたことが分かる。

◆満足度 (5 段階評価)

5 (満足)	4	3 (普通)	2	1 (不満)	回答なし
20 名	4 名	1 名	0 名	0 名	1 名

- ・大変多くの受講者のから、講座の内容について満足度が高いと言える。満足度の平均は 4.7 点であった。

●講座分析

- ・10 代の参加者は高校生である。受講理由は文化祭の広報でチラシづくりの技術を生かしたいとのことであった。講座のテーマや内容によっては、こうした世代にも当センターに足を運ぶキッカケとなることが、今回の事例として挙げられる。
- ・知識や技術を伝える講座であるためテーマが絞られ、興味・関心がある方はもちろん、必要性があるために参加

される方も見受けられたことが満足度の高評価につながったと考えられる。

《総論》

- TAGAJ0 Future Labo は平成 27 年度の受講者 13 名、内発表者 6 名。平成 28 年度の受講者 9 名、内発表者 6 名という結果である。これは多賀城を中心に市民活動につながる想いを持つ方が、まだまだ潜在していると確信できる結果である。
- 本事業は、講座中に活動者を生み出すことを目的とはせず、あくまで活動までの計画を考え地域の方々の前で宣言することを目的としている。しかし、平成 28 年度も受講生が講座中に活動を開始したことから、本事業が人材の発掘と育成の手法として効果が高いと認められる。
- 受講者同士、更にはゲストと受講者のつながりを含め、多賀城を中心に近隣の市や町に至るまでの人的なネットワークが構成の芽が伺える。現在はまだ小さなコミュニティではあるが、本事業を継続して行うことにより、多賀城を中心とした横断的な市民活動のコミュニティが形成され、市民に少しずつ浸透することによって、市民活動の促進につながるものとなることが期待できる。
- 以上のように、本事業では講座中に市民活動を開始する可能性を持つ即効性と、受講者が講座後に活動を開始し活動者になる育成支援、事業に関わった方々がつながり、コミュニティを形成してゆくネットワーク機能を有している。これらの効果が多賀城市を中心に近隣の市町に広がってゆくことは、市民活動に興味・関心を持つ方々が多賀城へ集まる土壌となる。そして、多くの活動者や将来の活動候補者が多賀城に集うことで、彼らの想いと熱意と行動が多賀城の市民に伝わり刺激を受けた市民が多賀城をより良いまちにしていこうと活動する。こうしたサイクルの構築に寄与できるものと考えられる。

【添付資料】チラシ、配布資料

I - 4 - 3 - 1

地域連携事業 地域づくり基礎調査

目 的	自治会・町内会を対象に取り組みや課題を調査し、各地区における課題解決の糸口、事例を見出し、地区内外に発信することで地域資源の共有を促進させる。
背 景	市民主体の地域づくりを実現するため、地域課題を解決する市民の動きを活発にすることと、地域資源（人材・物資・資金・情報）を活かしたネットワークの構築が不可欠である。そのため各地区における「地域課題」「地域活動」などを充分把握し、調査から見えてくる地域資源を可視化させ、自治会・町内会に向けて発信することで、地域資源の共有を促進させる。各地区からの情報・ノウハウの共有は、自治会・町内会の活動に変化を生み、住民の参加や地域課題の解決につながる。 今年度は、自治会・町内会への聴き取り調査の報告と参加者同士で地域の取組や課題を共有する情報交換会を行う。
成果目標	自治会・町内会の取組や課題などの地域情報の収集と発信を 8 地区以上行うことで、自治会・町内会が地域資源を共有し、課題解決に向けた行動を起こす。
対 象	多賀城市内の自治会・町内会（区長、役員、班長、民生委員、会員など）
成 果	●聴き取り調査・地域づくり新聞／地域情報の収集と発信ができた 今年度は 4 地区を調査し、「地域づくり新聞」として発信することで、地域の取り組みや課題を可視化させ、各地区へ共有することができた。また、聴き取り調査の際、区長・役員同士で地区の活動を共有する機会にもなった。 ●情報交換会／当事者同士の情報共有と課題を顕在化させることができた ・情報交換会には 52 名が参加。うち、区長・役員 37 名、民生委員 6 名と地域運営に関わる当事者の参加が 8 割以上を占めた。 ・アンケート項目の「今後、自治会・町内会の情報交換会の必要性」について、46 名中 42 名が「はい」と回答し、役立った情報として挙げられていたのは、「住民同士の交流活動」に 27 名、「自治会・町内会への住民参加の方法」であった。住民交流や住民参加が各地区の課題になっていることが伺える。 ●情報交換会／課題解決に向けた行動につなげることができた 情報交換会で発表した地区の取り組みに関心があり、参加した区長、役員が T S C に来館された。事例地区の活動へ案内し、行動につなげることができた。
次年度に向けた課題	●4 地区での実施に留まった 成果目標としては 8 地区を掲げていたが、地区を絞って丁寧に調査していくため、今年度は 4 地区での実施に留まった。 ●共有した取組を行動に移せる情報交換会の実施 情報交換会では取り組み事例だけでなく、「資金」「人員」「運営方法」も共有できないと、行動に移しにくいという声もあった。今後、町内会が共有した取り組みを、どのように行動に移せるか、情報交換会の方法について検討する。 ●課題の分析と課題解決に向けての各事業との連動 聴き取り調査、情報交換会を通して、各地区の課題を把握することができた。次年度は課題を分析し、T S C の他事業と連動して解決のきっかけをつくる。

【事業概況】地域連携事業 地域づくり基礎調査

●調査内容について

- ・地域の概要（住まいの環境変化、人口構成、地域課題など）
- ・町内会の組織構成と見回り・見守り活動等の現状について
- ・地域のふれあい活動（高齢者や生活困窮者を対象にした取り組み）
- ・集会所の利用状況（利用者数、団体数など）
- ・地域で住民の居場所づくり等のため活動する団体・個人・店など
- ・地域や町内会活動の優れたこと、他に誇れることなど

●桜木南区

・夏祭り／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 8 月 7 日（日）11:00～15:00

会 場：桜木南集会所

内 容：夏祭りの打合せに T S C スタッフが参加。

夏祭りは町内会・子ども会が合同で開催。当日は子ども会から中学生が射的コーナーの担当を行い、小学生の対応をする場面も見られた。T S C は夏祭りの様子をブログで発信した。



夏祭りの様子

・敬老会／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 9 月 18 日（日）11:00～14:00

会 場：桜木南集会所

内 容：桜木南区の 77 歳以上の高齢者対象の敬老会。招待対象者 60 名中 25 名が参加。参加人数は震災前とは大きく変わらない。参加者にはお弁当や記念品が提供され、欠席者には担当の役員が各家庭に届けている。



敬老会の様子

●高橋東二区

・夏祭り／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 7 月 31 日（日）17:30～20:00

会 場：高橋 2 号公園（小深町公園）

内 容：高橋地区（東一区、東二区、北区、南区）連合の夏祭り。子ども会から同地区の商店街、YOSAKOI サークル、仙台育英高校なども協力し、出店、演舞を披露。また町内神輿も地区内を回り、住民が多数参加している。



高橋地区夏祭りの様子

・聴き取り調査

日 時：平成 28 年 9 月 5 日（木）13:30～15:00

会 場：高橋地区生活センター

対 象：高橋東二区町内会

参 加：区長、役員、民生委員など（計 7 名）

内 容：【取り組み】

- ・情報発信／「高橋東二区町内会ブログ」「高橋東二区町内会新聞」で住民へ地域情報を発信している。
- ・住民参加／「卓球」「ボウリング」「健康麻雀」「お茶っこ飲み会」など、住民が楽しく参加しやすい行事を開催し、地域への参加を促している。
- ・資金調達／行事などの資金は助成金の申請や地元業者から協賛・寄付を募って、町内会費に充てている。

【地域課題】

- ・若い世代やアパート世帯の町内会への参加・参画が少なく、地域内の挨拶が少ない。
- ・役員、班長など担い手が不足している。



聴き取り調査の様子

●東田中南区

・書道教室 文化祭／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 8 月 11 日（金）10:00～18:00

会 場：ロジューマンコミュニティセンター

内 容：元子ども会会長が始めた子ども対象の書道教室。8 年以上継続し、同教室で育った小学生が高校生・大学生に成長し、小学生に書道を教えている。また子どもの親からの反響があり、夕方・夜間に大人対象の教室を開催。住民同士の交流を育んでいる。



書道教室の様子

・聴き取り調査

日 時：平成 28 年 11 月 5 日（土）19:00～20:30

会 場：ロジューマンコミュニティセンター

対 象：東田中南自治会

参 加：区長、役員など（計 7 名）

内 容：【取り組み】

- ・サタデーモーニングカフェ／焼き立てのパンとコーヒーが並ぶ住民対象の朝食会。
- ・エンジョイ倶楽部／高齢者の孤立を防ぐため、健康や生活に関する講座やお茶会を開催している。志引保育所と連携し、子どもたちとの交流を行っている。
- ・防災活動／住民が任意で登録する「防災見守りカー



聴き取り調査の様子

ド」や「見守りマップ」「意思表示マグネット（玄関扉の貼付し支援をお願いする）」を自治会で作成。安否確認には中学生は協力している。

【地域課題】

- ・自宅にこもりがちな高齢者の孤立防止。

●東能ヶ田区

・聴き取り調査

日 時：平成 28 年 11 月 25 日（金）19:00～20:00

会 場：東能ヶ田集会所

対 象：東能ヶ田町内会

参 加：区長、役員など（約 15 名）

内 容：【取り組み】

- ・フライングシューズ大会／長靴を投げて、点数のところに着地させることを競い合う。
- ・ジャンボのり巻き大会／婦人部が中心となり実施。災害時に使う非常用移動炊飯器で豚汁を作りできたのり巻きと一緒に食べている。当日参加できなかった 80 歳以上の方へのり巻きをお届けしている。
- ・カラオケ機器／13 万もの楽曲が入ったカラオケ機器と音響設備を集会所に設置。夏まつりや演芸大会、他地区への貸し出しも行っている。

【地域課題】

- ・地区の高齢化。（同区 65 歳以上の高齢化率は 34％／多賀城市平均 22％）

・フライングシューズ大会、ジャンボのり巻き大会／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 12 月 4 日（日）10:00～12:30

会 場：東能ヶ田集会所

内 容：当日の参加者は約 60 名。子どもを連れた家族連れから、90 歳のお年寄りまで、各世代が参加している東能ヶ田の恒例行事。



聴き取り調査の様子



フライングシューズ大会の様子



ジャンボのり巻き大会の様子

・多賀モリ会とおしゃべり会／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 12 月 8 日（木）13:30～15:00

会 場：東能ヶ田集会所

内 容：住民の健康寿命促進を目的に、多賀モリ会の佐藤信子さんらが中心となり活動。誰でも参加することができ、毎週第 2・4 木曜日の午後、集会所で開催している。



多賀モリ体操とおしゃべり会の様子

●志引区

・文化祭／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 10 月 16 日（日）午前・午後

会 場：志引集会所

内 容：志引地区で活動するサークルや個人・子ども会の出品などの展示会。会場には住民同士でお茶を飲む場も設けられている。作品を通して交流する場面も見受けられた。



文化祭の様子

・ほっとカフェ／取材（集会所・場の活用）

日 時：平成 28 年 11 月 12 日（土）10:30～12:00

会 場：志引集会所

内 容：住民同士が気軽に交流できる茶話会。自宅にこもりがちな高齢者を対象としている。参加者が楽しめるようにギターやフラダンス鑑賞など、毎回内容を変えている。



ほっとカフェの様子

・聴き取り調査

日 時：平成 28 年 11 月 25 日（金）13:30～15:00

会 場：志引集会所

対 象：志引町内会

参 加：区長、役員、民生委員（約 9 名）

内 容：【取り組み】

- ・老人クラブ「さくら会」／メンバーの発案により資源ごみ回収のサポートや、集会所の障子貼りなど、地域活動に協力している。
- ・防犯活動／中学生とも協力して、夜間の防犯パトロールを行っている。
- ・保育所との交流／集会所に隣接する志引保育所。保育所の運動会の際、町内会のテントの貸し出し・設営を手伝っている。また町内会の夏祭りには園児たちの参加もある。



聴き取り調査の様子

【地域課題】

- ・集合住宅の住民からの地域活動の参加・協力が少ないこと。

●あつまれ！地区の知恵袋～町内会・自治会の情報交換会

日 時：平成 29 年 2 月 19 日（日）13:30～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：自治会・町内会（区長、役員、民生委員）など、地域活動に関心のある方

参 加：52 名／定 員 50 名

内 容：自治会・町内会の区長、役員が他の地区の取り組みを知る機会が少ないという状況から、今回 T S C 初となる自治会・町内会対象の情報交換会を実施した。

①聴き取りした地区の報告（15 分）

T S C スタッフから、聴き取りした自治会・町内会の取り組みや課題などの報告。

②テーマトーク（各 15 分×4=60 分）

聴き取りした自治会・町内会で共通した課題をテーマに、各会長からお話いただいた。

テーマ：自治会・町内会への住民参加・参画を促す取り組み・工夫について

ゲスト：佐藤 司氏（隅田町内会／会長）

佐藤 亨氏（高橋東二区町内会／会長）

テーマ：地域の見守り活動について（高齢者／防犯・防災）

ゲスト：西 亨氏（東田中南自治会／会長）

柴田^{としお}十一夫氏（志引町内会／会長）

③みんなと一緒に情報交換（40 分）

ゲスト・参加者の各グループで、自身が住む地域の取組や課題などの情報交換を行い、全体へ発表を行った。



テーマトークの様子



みんなと一緒に情報交換の様子

アンケート集計結果

●あつまれ！地区の知恵袋～町内会・自治会の情報交換会

・概要

参加者	アンケート回収
52 名	46 名(回収率 88.5%)

・参加者の属性

自治会・町内会	民生委員	行 政	その他
37 名	6 名	4 名	3 名

・自治会・町内会・の参加が最も多く、47 地区中 21 地区の区長・役員が参加した。

・アンケート集計結果

1. 情報交換会の満足度

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1	未記入
20 名	17 名	7 名	0 名	0 名	2 名

・46 名中 37 名（80.4%）が 4 以上と高い満足度になっており、平均理解度は 4.3 であった。

2. 今回の情報交換会はどこで知りましたか？（複数選択可）

チラシ	スタッフ	市役所	クチコミ	ブログ	その他	未記入
16 件	9 件	7 件	6 件	2 件	6 件	1 件

・記述をみると、区長からの声かけが 11 件、民生委員からの声かけが 5 件と、各自の持つつながりから声かけがあり、参加していることが分かった。

3. 情報交換会について

①「参考になった」「うちの地区でもやってみよう」という役立つ情報はありましたか？

は い	いいえ
46 名	0 名

・回答者全員が「はい」に回答していることから、他の地区の取り組みや地域の課題を共有したことにより、何かしらの収穫を得たことが分かる。

②（①で「はい」と答えた方へ）どのような役立つ情報を知ることができましたか？（複数選択可）

自治会・町内会への住民参加の方法	25 件
住民同士の交流活動	22 件
高齢者の見守り活動	16 件
防災・防犯活動	16 件
集会所の活用方法	5 件
その他	4 件

・「自治会・町内会への住民参加の方法」「住民同士の交流活動」が各々 20 件以上になった。「いかに住民が地域と接点を持つか」ということについての関心が高いことが伺える。

③（①で「はい」と答えた方へ）どのような情報を参考に地域で取り組みたいですか？（記述式）

●回答者：31 件

・主な内容

住民同士の交流活動	11 件
防災・防犯活動	7 件

組織体制づくり（子ども会・民生委員との連携）	3 件
自治会・町内会の担い手不足	2 件
地域の高齢化問題・見守り	2 件
会報誌の発行について	1 件
集会所の活用方法	1 件
資金調達の方法	1 件
その他（参考になった・共感したなど）	4 件

- ・設問 3－②の回答結果と同様、「住民同士の交流活動」についての関心が高かった。

【記述内容】

- ・自治会交流の場に住民参加の積極的参加と働きかけ、役員の不足解消及び後継者育成に取り組みたい。
- ・防災活動に対する中学生の協力。
- ・我が地区では、どちらかというと、子供会、町内会と別々の取り組みをしているように感じられましたが、もっと全体の集まりと考えて、取り組む方向を持って行ければ、もっと人が集まるように思える。
- ・第 2・第 3 の職場で働いておられる方が、男女ともおられる。地域の集まりに出てくるのは、70 歳代後からということになります。高齢化が課題。

④どのようなテーマがあなたの住む地域の課題になっていますか？（複数選択可）

住民同士の交流活動	27 件
高齢者の見守り活動	17 件
防災・防犯活動	17 件
自治会・町内会への入会率	8 件
その他	3 件

- ・設問 3－②、③の回答結果に加え、上記の回答からも「住民同士の交流活動」が関心の高い地域課題になっていることが分かった。「住民同士の交流活動」の中には設問 3－②でも挙がっていた「自治会・町内会への住民参加の方法」も含まれている。

⑤今後、自治会・町内会の情報交換会は必要だと思いますか？

は い	いいえ	未記入
42 名	2 名	2 名

- ・上記の回答結果から、各地区同士で情報交換を行うことに対し、肯定的に捉えていることが分かった。同時に、地区内の課題は地区以外のノウハウや情報を取り入れることによって、課題解決につなげることが有効であることも、この結果から想定できる。

【添付資料】地域づくり新聞（高橋東二区、東田中南区、東能ヶ田区、志引区）、情報交換会チラシ

I - 4 - 3 - 2

地域連携事業 月刊フリーペーパー「tag」発行

目 的	・無関心層・潜在的活動者が、気軽かつ日常的に市民活動の情報にふれるようになる。また、情報にふれることで市民活動に関わるようになる。 ・地域や社会の課題に関する活動・データを紹介することで、市民が課題意識を持ち、課題解決に向けて行動を起こす。 ・既活動者が、ノウハウや新たな視点等を得て、活動に広がり生まれる。 ・市民活動の様子を発信することで、多賀城市内における市民活動の認知向上と活動しやすくなるための環境を整える。
背 景	これまでの「tag」発行を通して、掲載記事の情報を自団体の活動に活用したり、市民それぞれが生活の中で関心のある分野の情報を得るなどの成果が出ている。また、「tag」で取り上げた団体が自団体のイベントで該当号を配付することで参加者に T S C や「tag」のことを知ってもらえるという効果もあった。一方で、市民の N P O や市民活動への認知は高くなく、このこともあって「tag」を通しての市民活動・地域活動への参加事例がまだ少ない。今年度はこうした課題を解決するため、「地域や社会の課題を明確に打ち出し、解決のための活動を取り上げることで市民の関心を引きつけること」「配架先の開拓や配架方法の工夫を行い、情報にふれる機会をふやすこと」に力を入れる。
成果目標	・「tag」を通して市民活動や地域活動について知り、T S C 事業への参加や市民活動相談、または何らかの形で地域で行動を起こす市民を 10 名生み出す。 ・「tag」の新規配架先を 20 ヶ所以上開拓する。
対 象	・無関心層 ・潜在的活動者 ・既活動者 ・受益者
成 果	● t a g が市民の行動に変化を及ぼした ・「tag」をきっかけに、T S C 事業への参加が 5 名、記事を掲載した団体の活動への参加が 13 名あった（合計 18 名＝達成率 180%）。特に、「tag」掲載をきっかけに団体の活動について知り、参加につながった例が多く見られた。 ・「tag」に団体の記事を掲載してほしいとの申し出や、マスコミや企業などからの問い合わせもあり、市民のみならず広い層に読まれていた。 ● 配架先を拡大し市民が情報を得るきっかけとなった ・新規配架先は 18 ヶ所（達成率 90%）で成果目標は達成できなかったが、今年度は市内の民間店舗を中心に配架先を開拓し、より多様な層に手にとってもらえる機会を増やすことができた。
次年度に向けた課題	「tag」にふれることを通して、より多くの人に市民活動や地域活動について知ってもらうために、次年度は以下の 2 点に力を入れて取り組む。 ・市民にとって身近な地域の課題及び、その解決に向けて活動する団体や人を取り上げる。 ・ウェブ等でのアンケートも取り入れ、T S C や団体に直接アクションを起こす人だけでなく、T S C で把握できなかった市民の意見や感想も吸い上げ、誌面作成に活かす。

【事業概況】地域連携事業 フリーペーパー「tag」発行

●発行形態

- ・様 式 : A4×1 枚 全 2 ページ 両面カラー
- ・発行頻度: 月 1 回 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)
- ・発行部数: 2,000 部
- ・誌面デザイン、印刷は外注。

●内 容 (各号の詳細は別項を参照)

- ・多賀城の人・できごと・ものなどの地域資源を紹介。
- ・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。
- ・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。
- ・市民活動に T S C スタッフが参加し、その体験を紹介。
- ・多賀城を中心とした地域の N P O によるイベント・講座を紹介。
- ・T S C のブログ記事を簡単に紹介。
- ・T S C のサービスやイベント・講座等を紹介。

●配架先 (月別部数及び配架箇所数は別項を参照)

- ・多賀城市内及び周辺市町公共施設
- ・多賀城市内民間施設 (病院、福祉施設等)
- ・多賀城市内民間店舗 (スーパー、コンビニ、銀行、飲食店等)
- ・マスコミ
- ・多賀城市内外のイベント出展時に配布
- ・県内外 N P O 支援センター

●その他企画

○「祝！『tag』創刊 50 号 メモリアル展示会」

「tag」創刊 50 号を記念して、これまでの「tag」発行のあゆみを振り返るとともに、市民に多賀城及び周辺地域の「ひと」資源にあらためて着目してもらう機会を設けた。

■TSC会場

- ・日程：平成 29 年 2 月 16 日（木）～3 月 14 日（火）
- ・会場：TSC 2 階ギャラリー、1 階エントランス
- ・内容：「tag」の展示、「tag」福袋の配布、ほか

■多賀城市役所会場

- ・日程：平成 29 年 3 月 16 日（木）～4 月 11 日（火）
- ・会場：多賀城市役所 1 階ロビー
- ・内容：「tag」の展示、ほか



TSC 2 階ギャラリーでの展示



TSC 1 階エントランスに設置した「tag」福袋
テーマは絵本、観光、町内会、子育て、町内会



多賀城市役所 1 階ロビーでの展示

●メディア掲載

○「祝！『tag』創刊 50 号 メモリアル展示会」関連

- ・「多賀城市サポセン情報紙 50 号 創刊からの軌跡たどる 来月 14 日まで開催」
 - 「河北新報」平成 29 年 2 月 25 日（土）掲載
- ・「みちのく」欄…「tag」福袋についての記事
 - 「河北新報」平成 29 年 3 月 6 日（月）掲載

●各号の掲載内容

号数／発行日	内 容（目次）
40 号／平成 28 年 4 月 15 日 	P 1 ○経験を力に！ 高校生が踏み出した地域への一歩 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・島民みんなが生き生きと輝くような島づくり ・アトピーの悩みを分かち合う ・NPOのためのリスクマネジメントとは ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ文庫」のご案内 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「居場所」づくりを「支えあい」づくりのきっかけに
41 号／5 月 15 日 	P 1 ○世代を越えた交流に王手！ 多賀城将棋ラボ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・桜が津波を語り継ぐ ・美容サービスを全ての人に ・活動する中で大切なこと ○たがさぼからのお知らせ ・とびだす！町内会 地域づくりお役立ちガイド P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・生活の困りごと解決をめざして、ともに考えともに歩む
42 号／6 月 15 日 	P 1 ○自分ゴトから地域ゴトへ 認知症に備える「あやめカフェ」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「Techsoup JAPAN」のご紹介 ・安心して働ける社会をつくる ・ノラ猫のいない街づくり ○たがさぼからのお知らせ ・NPOいちから塾 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・踏み出しませんか、地域活動の第一歩
43 号／7 月 15 日 	P 1 ○やりがいと認めあいをはぐくむ 世界にひとつだけの「さをり」作品 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・がんばる人、一生懸命な人にエールを！ ・「より良い地域や社会をつくる」をビジネスで！ ・知的障がい者が参加できるスポーツの祭典 ○たがさぼからのお知らせ ・Tagayasu P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・地域の情報はラジオで！ しおがまペイウェーブ

号数／発行日	内 容（目次）
44 号／8 月 15 日 	P 1 ○地域をあげて取り組む！楽しむ！夏まつり ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「そばに居る大切な人を支えたい人」を支援する ・ NPO 法人を英語で言うとは？ ・当事者のリアルなニーズを叶える「ひきこもり女子会」 ○たがさぼからのお知らせ ・ 出前！ NPO いちから塾 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・ 見つけよう！ 転入してきた人たちの地域に関わるきっかけ
45 号／9 月 15 日 	P 1 ○「多賀城は楽しいまち」子どもたちの記憶に残るイベントを ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「チラシ成功のポイント」教えます！ ・漂流物が素材。アート作品で海浜美化啓発活動 ・ 30 歳、地域の未来に乾杯！ ○たがさぼからのお知らせ ・ Happy Mama Salon 「わたしの子育て」から「地域の子育て」へ P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「話すこと」は「放つこと」 「ココのびカフェ」でお話しませんか？
46 号／10 月 15 日 	P 1 ○誰もが先生！ 大人の経験が若者たちの刺激になる ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「小規模多機能自治」という考え方 ・つくる人と食べる人のココロをつなぐ「食べる通信」 ・待っています！役立てます！大切にしていた本を ○たがさぼからのお知らせ ・多賀城ソーシャル・エッセンス講座「ソーシャル・セクター概論」 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・「災害への備え」していますか？
47 号／11 月 15 日 	P 1 ○社会にやさしいお買い物 X' mas プレゼントセレクション ○ヒント from “たがさぼ Press” ・たがさぼの X' mas 雑貨市 参加団体のご紹介 ・「雑貨市」参加団体説明会を開催しました！ ・たがさぼの X' mas 雑貨市を開催しました。 ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼの X' mas 雑貨市 P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・見よう、食べよう、体験しよう、雑貨市の楽しみ方

号数／発行日	内 容（目次）
48 号／12 月 15 日 	P 1 ○親子でふれあい 笑顔いっぱい ○ヒント from “たがさぼ Press” ・見せ方・もてなし…さまざま ・自分たちの手でまちをキレイに。 ・子育てパパ、活動中！ ○たがさぼからのお知らせ ・TAGAJ0 Future Labo 2nd season マイアプローチ発表会 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・若者の視点を多賀城に。Truss（トラス）
49 号／平成 29 年 1 月 15 日 	P 1 ○たがじょう転入組 ー転入者による転入者のあつまりー ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「見えない」ってどんな感じだろう？ ・ふるさと納税という名の寄付金制度 ・寄付の方法、さまざま ○たがさぼからのお知らせ ・55 歳からのセカンドライフ講座 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・地区運営の秘けつは、住民のつながりカー大代地区の場合ー
50 号／2 月 15 日 	P 1 ○後輩に伝えたい！ ボランティアの楽しさとやりがい ○ヒント from “たがさぼ Press” ・高校生が、社会課題の解決にチャレンジ！ ・きちんとふりかえり、次へつなげる！ ・若者が自分の未来に希望を持てる社会を目指して ○たがさぼからのお知らせ ・祝！「tag」創刊 50 号 メモリアル展示会 P 2 ○みんなで考える多賀城のこと ・地域のこと、他人ゴトから自分ゴト、そ・し・てみんなゴトへ
51 号／3 月 15 日 	P 1 ○「想い」の分かちあいが生む新たなつながり ○ヒント from “たがさぼ Press” ・自動販売機で社会貢献 ・「ここに住んでてよかった」と思えるように ・障がいのある女性も快適に過ごしたい！ ○たがさぼからのお知らせ ・「tag」配架先募集のお知らせ P 2 ○市民活動はじまりのはじまり ・想いをかたちに、そしてアクションへ

●配架部数 ※ () 内は配架箇所数・増減

号数	館内	公共 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	民間施 設店舗	その他	配架部数 合計	発行 部数
39 号 (3 月号) (配架箇所数)	200	470 (55)	206 (52)	40 (21)	85 (15)	95 (6)	250 (25)	112 (15)	1,458 (189)	2,000
40 号 (4 月号)	200	578 (+5)	192 (+1)	40	85	90	216 (-1)	131 (+2)	1,532 (+7)	2,000
41 号 (5 月号)	200	578	192	40	85	90	216	131	1,532	2,000
42 号 (6 月号)	200	578	192	40	85	90	269 (+7)	131	1,585 (+7)	2,000
43 号 (7 月号)	200	578	192	40	85	90	277 (+1)	131	1,593 (+1)	2,000
44 号 (8 月号)	200	578	192	40	85	90	277	131	1,593	2,000
45 号 (9 月号)	200	578	192	40	85	90	277	131	1,593	2,000
46 号 (10 月号)	200	578	192	40	85	90	277	131	1,593	2,000
47 号 (11 月号)	200	578	192	40	85	90	277	131	1,593	2,000
48 号 (12 月号)	200	588 (+1)	192	40	85	90	277	131	1,603 (+1)	2,000
49 号 (1 月号)	200	588	192	40	85	90	297 (+2)	131	1,623 (+2)	2,000
50 号 (2 月号)	200	588	192	40	85	90	297	131	1,623	2,000
51 号 (3 月号)	200	588	192	40	85	90	297	131	1,623	2,000
合 計 (配架箇所数)	2,400	6,976 (61)	2,304 (53)	480 (21)	1,020 (15)	1,080 (6)	3,254 (34)	1,572 (17)	19,086 (207)	24,000
月別増減		+118 (+6)	-14 (+1)	±0	±0	-5	+47 (+9)	+19 (+2)	+165 (+18)	

【添付資料】「tag」40 号～51 号

I - 4 - 4 - 1

市職員研修事業 市職員研修

目 的	多賀城市職員に市民による問題解決行動（市民活動）と協働の本質を理解してもらうことで、協働推進の基盤をつくることを目的とする。
背 景	第五次多賀城市総合計画（後期基本計画）において、多賀城市では市民の生活様式の多様化に伴い個別化・複雑化する地域課題が発生し、従来の公平・平等を基本とした行政サービスだけでの解決が難しくなっている。そのため、市民と行政が協働することにより、互いの強みや資源を持ち寄りながら、より良い地域を創り出すことが必要であると示している。 多賀城市では平成28年3月にオープンした市立図書館を核に、市民が文化・芸術に触れ、創造力やシビックプライドが形成されていくことを目指している。本事業では、市民が地域へ関わる行動を促進させるため、アートが有用であるという理解を市職員に促すとともに、市民の力を引き出して市民とともに協働で地域をつくることの意義を考える機会とする。
成果目標	・市民による問題解決行動（市民活動）と協働の本質を理解している。 ・市民主体・協働のまちづくりを進める上でアートがいかに有用かを職員が理解する。
対 象	入庁 10 年以下の多賀城市役所職員
成 果	●市民協働について参加者 5 割以上は理解できた アンケート提出者 50 名のうち、「市民協働の理解度」5 の評価が 5 名、4 の評価が 23 名、3 の評価が 22 名、1・2 の評価が 0 名で平均理解度は 3.7 であった。 ●アートの有用性の理解につながった アンケート項目「ワークショップを通して、気がついたこと・学んだこと」において「アートの有用性に気づいた」に関する記述が 7 名であった。ただし、最も多かった「市民参加の敷居を下げる」についても、特定の人ではなく誰もが関われるものとしてアートと地域づくりを結び付けた意見が多く、その他の記述もアートの持つ性質を通じて出た意見が多かったので、市民主体・協働でのアートの有用性を認識した参加者が多かったといえる。 ●職員の意識変化につながった アンケート項目「今後、業務で活かしたいこと、または活かすために必要なこと」において、「市民との関わり方を変えていく」「多様な考えや新しい考えを取り入れていく」「積極的に情報収集やイベント参加をしていく」という個々の意識変化につながる記述が多かった。
次年度に向けた課題	●協働の本質の理解につなげるため、NPOに関わる機会をつくる 本年度では、「アート」をテーマとした内容であり、いかに市民参加・主体性を引き出すかという部分に主眼を置いた。一方で、実際に市民が主体的に問題解決行動を行っている事例もある。次年度以降は、本事業の位置づけを確認した上で、市民参加・主体性に加えて、協働のパートナーとして市民と関わっていくために、実践的に活動しているNPOにふれる機会もつくっていく必要がある。

【事業概況】市職員研修事業 市職員研修

●多賀城市職員 協働研修

ーアートが人と地域を変えていくー

日 時：平成 29 年 3 月 13 日（月）15:00～17:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

対 象：多賀城市役所職員（入庁 10 年以下）

内 容：【講義】

- ・えぞこホールの事業展開
- ・住民参加型事業の意味
- ・アートを手段にした取り組みの事例 など

【ワークショップ】

- ・アートを手段にした住民参加型の事業展開をテーマに、ワールドカフェ形式のワークショップでディスカッションを行った。

講 師：水戸雅彦氏（えぞこホール（仙南芸術文化センター）／館長）

定 員：50 名／参加者：52 名



講義の様子



ワークショップの様子

アンケート集計結果

●対 象（参加者：52 名 アンケート提出 50 名）

①研修の満足度

満足度 5	満足度 4	満足度 3	満足度 2	満足度 1
9 人	31 人	8 人	2 人	0 人

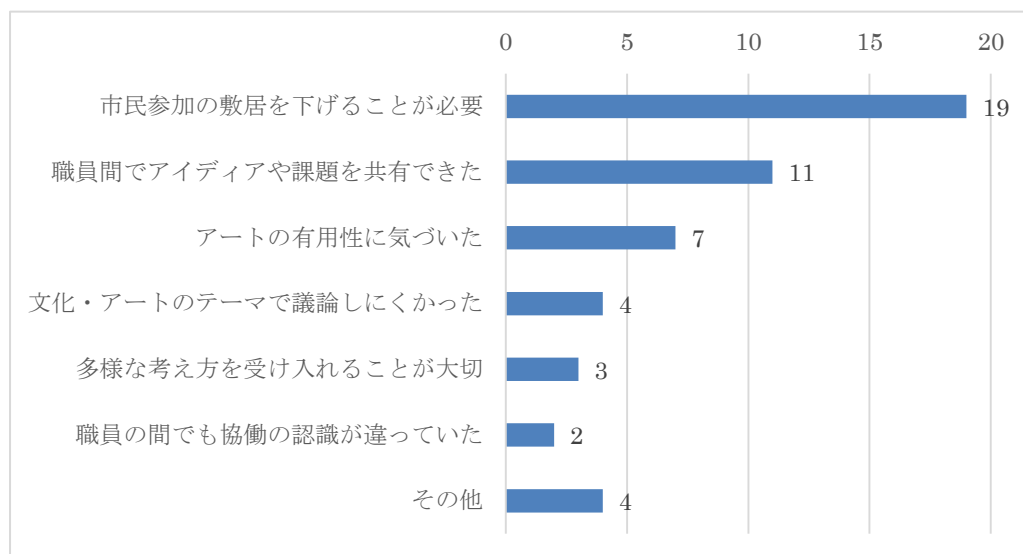
- ・「アートと人づくり、地域づくりを結びつけて考えたことがなかったため新しい視点から地域振興のアプローチを考える良いきっかけになった」というような感想が多く寄せられた。アートや文化芸術が街おこしや市民協働の有効なツールになるということの気づきを感じられた。アートは敷居が高いと思っていたが、研修を受けて身近なものに感じられるようになった。多賀城で行われているイベント等にもっと目を向けることや、実際行われているイベント等にどのような目的を持って参加するかなど意識改革が必要。

②市民協働の理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	理解度 2	理解度 1
5 人	23 人	22 人	0 人	0 人

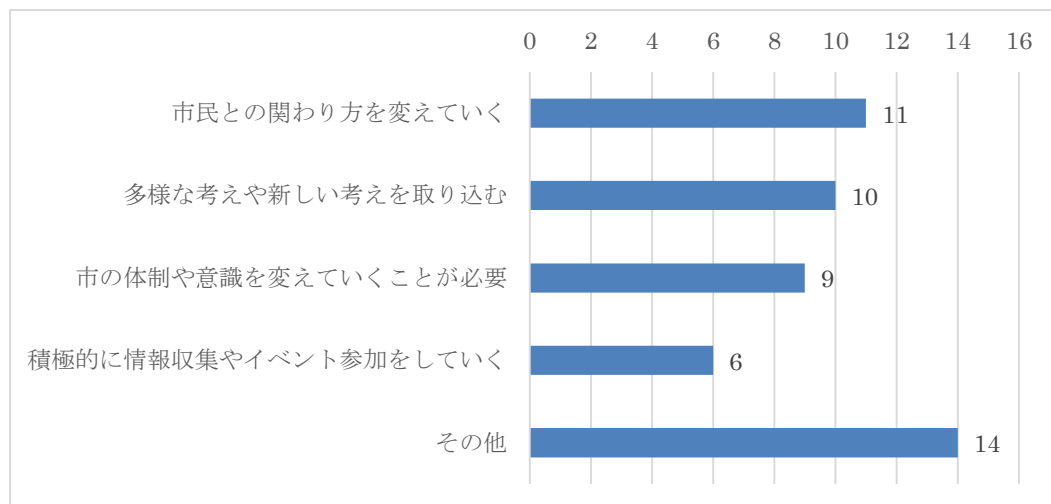
- ・まちづくりは市民協働とはいっても、どうしても行政主体になりがち。市民協働を進める上では住民が主体性・自主性をもつことが必要である、と多くの参加者が感じたようだ。そのためには、行政側では住民が参加しやすいような事業展開をしたり、情報をより多くの住民に向けて発信したり、住民が気軽にたくさん目に触れやすいようにするなどの工夫をする必要があると感じたようだ。そしてイベント等の文化活動を通して住民との対話を増やしてお互いに意見を交換していくことが必要、と行政と住民が歩み寄ることが大切という考えをもったようだ。

③ワークショップを通して、気がついたこと・学んだこと



- ・アートへの市民参加の敷居を下げることについての記述が最も多かった。講義の中に同様の話があり、参加者の中に強く残ったものと思われる。文化やアートは特定の人が楽しむものでなく、本来は誰でも関わるができるもので、いかに市民に身近なものとして認識してもらうかが、参加者にとっての大きな関心ごととなった。
- ・普段、市民参加や協働について話す機会が少なかったようで、多様な考え方を取り入れる、アイデアを共有し合うことの必要性を実感した参加者も多かった。
- ・一方で、文化・アートというテーマの捉え方の違いや曖昧さ、協働についての認識の違いから、議論のし難さを感じた参加者もいた。

④今後、業務で活かしたいこと、または活かすために必要なこと



- ・市民との関わり方に関する記述が最も多く、「市民との信頼関係を築く」「市民の主体性を意識する」「市民の視点に立つ」という視点を持って日々の業務でも関わっていきたいという意見があった。
- ・多様な考え、新しい考えを認めることの重要性についての記述も多く、これまで固定観念をなくすことで柔軟な発想や本質的な物事の捉え方をしていきたいと考えた参加者も多かった。
- ・市の体制や意識の変化については、意見を大別すると「職員のディスカッションの場を増やしたい」「部署によって協働の認識がちがう」「市全体で協働を受け入れる体制や環境が整っていない」という内容だった。ただし、課題をあげるだけでなく、まずは自身が変わっていくことを記述しているものもあり、前向きに捉える意見が多かった。

【添付書類】配布資料

I-4-5-1 その他事業 たがさぼ文庫の運用

たがさぼ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、震災関連、図書館等の公共施設の書籍といった多賀城市の動向に合わせた資料も収集している。

<蔵書数>

- ・1,047 冊（平成 28 年 3 月現在） 登録者数計 167 人

<概要>

- ・事前登録により、貸出カードを発行。
- ・1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間。



平成 28 年度書籍貸出件数（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 20 年度				
平成 21 年度		37	100	132
平成 22 年度		19	132	109
平成 23 年度		24	76	116
平成 24 年度		29	122	158
平成 25 年度		18	98	137
平成 26 年度		20	89	127
平成 27 年度		13	151	215
平成 28 年度	4 月	1	14	20
	5 月	0	9	14
	6 月	0	14	19
	7 月	2	22	30
	8 月	0	14	19
	9 月	0	8	14
	10 月	1	13	22
	11 月	0	12	19
	12 月	1	10	16
	1 月	1	7	12
	2 月	0	11	18
	3 月	1	4	6
平成 28 年度計		7	138	209

平成 28 年度は前年度と比較し、登録者数、貸出件数・冊数はいずれも減少している。

新規登録者数は減少傾向にあり、要因としては T S C 開館以前から活動していた方の登録が落ち着いてきていること、震災の関心が薄れていることが挙げられる。新たな活動自体は生まれているので、こうした活動に役立つ資料としてたがさぼ文庫を活用していきたい。

貸出件数・冊数も若干減少しているが、特に平成 27・28 年度は NPO いちから塾、地域づくり実践塾を受けてこれから活動をはじめたいと思った市民、活動をはじめた市民の定期利用が多く、講座実施後の人材育成としての役割を果たしている。

蔵書に関しては、市民の関心に合わせて子ども食堂の本、取り組むべき課題に合わせて少子高齢化や空き家活用に関する本、企業との協働を進めるために企業の社会課題解決に関する本を主に増やした。

次年度も地域・社会課題の可視化や解決のヒントとなる書籍を揃え、市民や各セクターが課題に向き合うための参考とする。

I-4-5-2

その他事業 NPOの絵本展

目的	・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、地域・社会課題にふれる場を設けることで、課題意識の向上につなげる。 ・絵本に関心がある市民（特に子育て世代の方やその子ども）を対象に、さまざまなNPOが発行した絵本や取り組みを紹介し、NPOの活動の多様さを知ってもらうきっかけとする。
背景	前年度、多賀城市立図書館のリニューアルオープンに伴い、「多賀城世界絵本フェスタ」が開催された。この企画では、絵本の展示やトークセッション等が行われ、多くの市民が絵本に関心を持った。そこで、TSCでも自主企画として、単に絵本を楽しむというだけでなく、絵本を通して地域・社会課題あるいはその課題解決に取り組んでいるNPOを知る機会となる「NPOの絵本展」を実施し、NPO、地域・社会課題、TSC自体の認知向上を行なった。 「NPOの絵本展」は「多賀城世界絵本フェスタ」終了後も、TSCに来館しない方に向けて、NPO、地域・社会課題、TSCを知ってもらうきっかけとして、他団体主催の子どもや絵本に関するイベントに出向いた。
成果目標	設定なし
対象	・幼稚園～小学校低学年 ・子育て世代 ・絵本に関心のある市民
成果	・多賀城市内外のイベントに5回出展し、絵本の閲覧、読み聞かせ、NPOの紹介で合わせて137名がNPOにふれる機会となった。絵本を通して、地域・社会課題やNPOの活動の多様さを知る市民が増えた。 ・NPOの絵本展を行う中で、児童館や放課後児童クラブといったイベント主催団体との接点をつくることができ、こうした団体のスタッフにもNPOを知ってもらうことができた。イベント主催団体とNPOの接点をつくっていくことで、今後、NPOと連携したプログラムづくりも期待できる。 ・TSCが絵本展をきっかけにイベントに出向くことで、TSCを訪れない方に対してTSCの認知を向上させることが出来た。TSCにNPOの情報があること、活動に関して相談できることを知ってもらい、来館につながることが期待できる。
次年度に向けた課題	・現状では、TSCスタッフが展示や読み聞かせ、NPOの紹介を行っているが、絵本発行に携わる団体にも、読み聞かせやワークショップ等を行ってもらうことで、より直接的に市民にNPOにふれる機会を持つてもらう。 ・多賀城市内のイベントへの参加が少ないため、次年度以降は市内のイベントにも積極的に出向き、市内におけるNPOやTSCの認知を高めていく。 ・「絵本」というツール以外にも、市民に気軽にNPOにふれてもらえるための多様なメニューを検討する。

【事業概況】その他事業 NPOの絵本展

●NPOの絵本展の内容

- ・NPOが発行、制作に携わる絵本の展示
- ・読み聞かせ
- ・発行、制作に携わる団体の紹介

●展示する絵本

- ・減災絵本「リオン」(NPO 法人防災士会みやぎ／防災)
- ・「えほん 障害者権利条約」(NPO 法人日本障害者協議会／福祉)
- ・「そのこ」(認定 NPO 法人 ACE／国際協力)
- ・千代田いまむかし(まちなびや／まちづくり)
- ・てんてん 他 3 冊(点字絵本)(NPO 法人UD絵本センター／福祉)
- ・森のハロウィン(森林環境ネットワーク／環境)
- ・ちょこっと・ねっとのおはなし(NPO 法人アフタースクールばるけ／福祉)
- ・ボクのせいかも・・・お母さんがうつ病になったのー 他 2 冊(プルスアルハ／子ども・医療)
- ・ぼくは海になった 東日本大震災で消えた小さな命の物語(震災で消えた小さな命展／動物・震災)

・鶴ヶ谷児童館こどもまつり

実施日：平成 28 年 5 月 7 日(土)

会 場：鶴ヶ谷児童館

人 数：45 名

参加イベントについて：

今年で 42 回目となる。お話サークル、児童クラブ、老人クラブ、高校生等がボランティアとして参加する児童館のイベント。読み聞かせ、縁日といったメニューが用意されている。

主催：多賀城市

運営：特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク



車の荷台を使って絵本を展示。天候にもよるが、屋内外問わず実施できる。

・多賀城小学校放課後児童クラブ

実施日：平成 28 年 8 月 4 日(木)

会 場：多賀城小学校

人 数：40 名

参加イベントについて：

放課後児童クラブは、主に小学 1～3 年生の昼間に保護者が家庭にいない児童を対象に、適切な遊びや生活の場を提供している。今回は夏休み中のクラブのメニューの一つとして実施した。

主催：多賀城市

運営：特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク



教室を使い読み聞かせを実施。学校等へ向けたメニューとしても活用できる。

・ GAMA ROCK FES

実施日：平成 28 年 9 月 24 日（土）

会 場：塩釜みなと公園

人 数：30 名（T S C で実施した他メニューの参加者も含む）

参加イベントについて：

震災後よりはじまった、音楽・アート・食を通して塩釜の復興や魅力発信することを目的としたイベント。毎年 1000 人を超える観客が来場している。

主催：GAMA ROCK FES 2016 実行委員会

※P84 にて別途報告あり



アートワークショップの一つとして参加。
親子連れがゆったりできる場にもなった。

・ シオーモ絵本まつり

実施日：平成 28 年 10 月 6 日（木）～16 日（日）

スタッフが参加したのは 9 日（日）・16 日（日）のみ

会 場：ふれあいエスプ塩竈

人 数：17 名（スタッフが参加した日のみ集計）

参加イベントについて：

塩釜の昔話・言い伝えや絵本についての企画が集まったイベント。朗読講座や読み聞かせ、絵本原画展、造形ワークショップ等のさまざまな企画が用意されている。

主催：シオーモ絵本まつり実行委員会



子どもだけでなく絵本が好きな大人の
参加もあった。

・ しおがま絵本村あきまつり

実施日：平成 28 年 11 月 13 日（日）

会 場：亀井邸

人 数：5 名

参加イベントについて：

塩釜の歴史的建造物である亀井邸を活用して行われた絵本のイベント。お話し会、絵本の交換会、ワークショップ等、絵本を活用したさまざまな企画が用意されている。

主催：しおがま絵本村



和室で実施。大人に対してじっくり
NPOの説明をした。

【添付資料】NPOの絵本展チラシ

I-4-5-3

その他事業 GAMA ROCK FES 出展

目的	・若い世代や子どもたちがNPOに楽しみながらふれることで、NPOの活動や地域・社会課題を知るきっかけとする。(NPO絵本展、NPOブース、クイズラリー) ・GAMA ROCK FES 来場者が、自ら地域の魅力に気づくとともに、地域情報の発信の担い手となる。(〇〇新聞) ・GAMA ROCK FES の会場の中に子どもも楽しめる場をつくる。(NPOの絵本展、NPOブース、〇〇新聞)
背景	「GAMA ROCK FES (主催：同実行委員会)」は、平成 24 年 (平成 23 年には前身となる炊き出しとライブを併せたイベントを実施) より塩釜の魅力を多くの人に伝え、まちを元気にしていくことを目的に開催される音楽イベント。平成 26 年には 1,600 人の観客を動員し、塩釜や多賀城、その他周辺地域の若い世代や子連れを呼び込むイベントとして定着している。 せんだい・みやぎNPOセンターでは、これまで「ARABAKI ROCK FEST」といった音楽イベントにて、NPOをコーディネートしてワークショップの場を開くことで、来場者にNPOにふれる機会をつくってきた。 そこで、これまで音楽イベントにNPOをコーディネートしてきたノウハウを活かし、「GAMA ROCK FES」にてNPOがワークショップを企画する場をつくる。こうした場をつくることで、イベント参加者にNPOの活動やその背景にある地域・社会課題の認知を高めていく。
成果目標	設定なし
対象	・音楽やアートに関心のある若い世代 ・幼稚園～小学校高学年
成果	・NPO2 団体を主催者となぎ、アートワークショップの中にNPOのブースをつくることができた。これによりNPOが活動をPRする機会が生まれるとともに、来場者が気軽にNPOにふれることができた。 ・TSC企画のワークショップや絵本展を通して子ども向けの空間をつくることのできたため、子ども・子育て世代を中心に約 50 名が訪れ、NPO、地域・社会課題、地域の魅力を知ったり、考えるきっかけとなった。 ・来場者に地域の魅力を描いてもらうことで、自ら地域資源に気づくとともに、他の来場者が新たな地域資源に気づくきっかけとなった。今回約 90 記事が集まり、壁新聞がつくられたので、今後も地域の魅力を発信するツールとなる。
次年度に向けた課題	・次年度以降も多くの市民が集まる場に、NPOやTSCが連携できる機会をつくり、TSCに来館しない方でもNPOにふれることができるようにしていく。 ・壁新聞は現状では「GAMA ROCK FES」の会場以外では配架しておらず、十分に活用できていない。次年度以降は、展示やワークショップで市民の目に触れたり、活用できる機会をつくっていく。

【事業概況】その他事業 GAMA ROCK FES 出展

●GAMA ROCK FES 概要

日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）9:00～18:00

会場：宮城県塩竈市みなと公園

主催：GAMA ROCK FES 2016 実行委員会

●企画内容

- ・NPOブース
- ・きみの地元の〇〇新聞！つくってみたいか？
- ・NPOクイズラリー
- ・NPOの絵本展



TSCのブースの様子。主に親子連れや子どもたちが多く訪れた。

●NPOブース

多賀城市内外で活躍するNPOをコーディネートし、アートワークショップ内に出品してもらった。

○森のようちえん虹の森

団体について：

自然の中で子どもたちを遊ばせることで、自分で考え決めていく力を育むことを目指す団体。多賀城市や仙台市泉区を中心に活動している。

企画：どんぐりで遊ぶ

どんぐり等を使ったおもちゃで遊び、子どもが自然にふれる機会を提供する。

○みやぎ・環境とくらしネットワーク（MELON）

団体について：

地球環境と暮らしについての調査研究や啓蒙活動を行っている団体。宮城県域で活動している。

企画：虫よけスプレーをつくろう

天然素材を使った環境にやさしい虫よけをつくり、環境について考える機会を提供する。



森のようちえん虹の森のブース。自然にふれられる子どもたちの居場所となった。



MELONのブース。参加者が楽しく環境のことを知ることができた。

●きみの地元の〇〇新聞！つくってみたいか？

記事数：約 90 記事（1人で複数記事を書いた場合も含む）

内容：来場者に、自身が知っている地域のオススメの場所を紙に書いてもらい、壁新聞にまとめる。地元の人からは多賀城市や塩釜市、周辺地域のオススメスポットやグルメが集まった。また、県外から来た人は、宮城県や塩釜市に来て良かったと思うものや自分の住む地域の魅力を書いてくれた。



参加者それぞれが記事を描き、地域の魅力が詰まった壁新聞となった。

●クイズラリー 参加者：子ども 10 名 内容：NPOブースの企画や展示物を参考に、NPOの活動に関するクイズに答えてもらう。クイズに答えることによって、単に企画に参加するだけでなく、活動についても理解を深めてもらう。	 クイズの合格者。合格者にはNPO博士認定証を配布。
●NPOの絵本展 参加者：30 名（〇〇新聞、クイズラリー参加人数から推計） 内容：NPOが制作した、あるいは制作に携わった絵本を展示。展示した絵本に関しては「NPOの絵本展／事業概況を参照」。	 親子連れや子どもたちがゆったり休みながら絵本を読んでいた。

I - 4 - 5 - 4

その他事業 多賀城市広域連携事業 高橋地区を盛り上げる会のサポート

目 的	地域課題（魅力）の深掘りと地域づくり関わる担い手を発掘・育成し、地域内・地域間の連携を促進する。
背 景	自治会・町内会などの地域活動においては、従来からの取り組みを継続する傾向にあり、行事型で地域課題解決につながりにくいものになっている。また、役員の高齢化により担い手不足がさげばれる中で、地域づくりに関わる人材・団体のネットワークが希薄なために、地域内・地域間での情報共有やノウハウ共有が進みにくい状況にある。少子高齢による人口減少社会において、従来の取り組みでは地域が持続していくことが困難になることが予想される。そのため、多様な主体の連携がますます求められるようになる。 本事業では平成 26・27 年度に引き続き、多賀城市が行う広域連携地域づくり事業への協力を通して、モデル地区（高橋）で住民が主体的に動けるように、話し合いをもとにした地域づくりの担い手育成や連携の促進に取り組んでいく。取り組みの中で、他地区でも活用できる地域連携に必要なポイントを明らかにするとともに、地域連携を促進する上での T S C の役割や、主体性を育む関わり方も探る。
成果目標	設定なし
対 象	モデル地区（高橋）の地域住民、事業者、通勤・通学者
成 果	・平成 26～28 年度と懇談会を進めるプロセスの中で、住民が自らグループセッションの進行を行ったり、付箋や模造紙に意見をまとめるといった、意見の引き出し・可視化の工夫が行われた。住民主体の懇談会の形が出来上がっている。 ・懇談会から生まれたサンデーモーニングカフェの取り組みを、講演や情報交換会の場で区長が発信している。サンデーモーニングカフェをはじめる地区もでてきており、モデル事例となっている。 ・従来の町内会、長寿会、子ども会といった組織の垣根を超えて実行委員会という形で事業を実施しており、多様な主体が連携して運営に携わる環境が整ってきている。 ・多くの住民が積極的・前向きにアイディアを出し、運営に携わる様子が見えている。
次年度に向けた課題	・3 年間でつくられたプロセスや取り組み事例を、モデル地区としてどのように他地域に広げていくか検討する必要がある。 ・より地区の課題を明確にし、その課題を解決できるような事業を生み出すための方法を検討する。（懇談会のプロセスや関わる主体を広げる等） ・より住民による主体的な懇談会運営に向けて、必要なノウハウや関わり方を検討する必要がある。

【事業概況】 その他事業 多賀城市広域連携事業 高橋地区を盛り上げる会のサポート

●モデル地区（高橋）での懇談会・実施事業のサポート

・高橋地区について

高橋東一区、高橋東二区、高橋南区、高橋北区の 4 地区で構成されている。

スーパーマーケットや飲食店、商店などの民間店舗も多数存在する他、仙台育英高校の多賀城キャンパスがある。

下の表は 4 地区の人口と世帯数（参考：住民基本台帳人口集計表 平成 29 年 2 月 28 日現在）

	人口	世帯数
高橋東一区	1,108	567
高橋東二区	1,877	786
高橋南区	898	399
高橋北区	1,288	541
計	5,171	2,293

・高橋地区を盛り上げる会（全 5 回）

平成 26 年度から実施している懇談会。町内会や子ども会役員に限らず、高橋地区住民や事業者、通勤、通学している方なら誰でも参加できる場となっている。

懇談会や各取り組みは、宮城県の被災地域交流拠点施設整備事業補助金を財源として実施している。

第
1
回

日 時：平成 28 年 7 月 21 日（火） 19:00～20:30

参加者：17 名

内 容：世代間交流につながるイベントのアイデア出し
→テーブルファシリテーションも住民が行い、多くの住民が意見を言う場を自らつくっていた。
→子どもたちもアイデアを出していた。



多様な世代の方が参加。子どもも意見を出した。

第
2
回

日 時：平成 28 年 8 月 24 日（水） 19:00～20:30

参加者：22 名

内 容：実施事業の決定、実行委員会の立ち上げ
→町内会役員ではなく、若い住民が主導となった実行委員会が立ち上がった。

第
3
回

日 時：平成 28 年 9 月 12 日（月） 19:00～20:30

参加者：16 名

内 容：日時、役割分担等の決定、企画ごとの打ち合わせ
→長寿会や子ども会といった組織の垣根を超えてやっていくとの確認が住民からあった。
→企画の責任者が全部背負うのではなく、みんなで作っていくとの確認が住民からあった。



付箋や模造紙を使って意見を可視化。

第 4 回	日 時：平成 28 年 10 月 11 日（火） 19:00～20:30 参加者：20 名 内 容：企画ごとの打ち合わせ →組織ごとに企画を担当するのではなく、企画ごとに担当メンバーが個別に住民を誘う形となった。組織を超えた住民交流につながった。	
第 5 回	日 時：平成 28 年 11 月 15 日（火） 19:00～20:30 参加者：18 名 内 容：企画ごとの打ち合わせ、段取り最終確認 →企画ごとに楽しく話し合いをし、前向きなアイデアが挙がった。企画を「やらされるもの」ではなく「自分たちでつくっていけるもの」として進めることが出来た。	

多くのアイデアが出た。ホワイトボードを使って全員で共有。

●高橋地区を盛り上げる会

懇談会を経て世代間交流を目的に開催された。縁日（射的、駄菓子など）、しめ縄づくり、クリスマスリースづくり、飲食（豚汁、お好み焼きなど）といった企画を実施。しめ縄づくりでは、ノウハウを持つ年配の住民と子どもたちの交流が見られた。また、クリスマスリースづくりは懇談会の中で子どもから出た意見が反映された企画である。運営は懇談会参加者で結成された実行委員会が担った。T S C スタッフも運営補助として参加した。

日 時：平成 28 年 12 月 4 日（日）10:00～12:00

会 場：高橋地区生活センター

参加者：240 名



しめ縄づくり。子どもや若い世代にとって貴重な体験となった。



会場の様子。さまざまな企画が用意され、多くの住民が参加した。

●サンデーモーニングカフェ

平成 26・27 年度の懇談会を経て、住民が気軽に集まり交流を深める機会をつくろうと企画された。東田中南自治会で行われているサタデーモーニングカフェ参考にしている。運営は区長を中心に呼びかけた地区の方で行われている。平成 28 年 2 月に開始し、隔月で継続して開催している。今年度は、「あつまれ！地域の知恵袋（主催：T S C）」「みやぎ地域福祉フォーラム（主催：宮城県社会福祉協議会）」といった場で事例発表として区長が登壇し、モデルとして他地区にも広まっていった。T S C スタッフは、取材を行って事業等で取り組みを発信したり、高橋地区に住む T S C 利用者や高橋地区にある福祉事業所に取り組みを紹介して参加につなげた。

日 時：平成 28 年 4 月 24 日・6 月 26 日・8 月 28 日・10 月 30 日・12 月 18 日・平成 29 年 2 月 26 日

いずれも日曜日、8:30～10:30 の開催

会 場：高橋地区生活センター

参加者：4 月 168 名 6 月 180 名 8 月 145 名 10 月 176 名 12 月 230 名 2 月 238 名



世代問わず、多くの地域住民が参加している。参加者は徐々に増えている。



朝ご飯を食べながら談笑することで住民の交流が進んでいる。

Ⅱ

平成 29～31 年度施設運営方針

Ⅱ－1 平成 29～31 年度施設運営方針

多賀城市の状況

平成 28 年 3 月に多賀城市立図書館が開館。図書館を中心とした文化交流拠点では、文化により自発的に考え、行動し、価値を創造できる市民を育むことが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点プロジェクトに位置づけられている。

震災から 5 年が経過し、公営住宅への移行に伴い、新たなコミュニティづくりが地域支援員を中心に進められている。平成 26 年度には「地域づくり基本方針」を策定し、モデル地区を設定。少子高齢化が進む中で広域連携の新たな地域づくりに取り組み始めている。また、介護保険制度の改正により、地域のことは地域で支え合えるような担い手育成が求められている。

T S C が目指すまちの姿

市民・企業・学校・行政など地域のさまざまな主体が協力し合い、暮らしの課題が解決され、暮らしがより豊かになっている。

T S C の役割

- まちの魅力や暮らしの課題に気づき、主体的に行動する市民が育まれる場。
- 想いをかたちにできる場。想いをかたちにする伴走型サポーター。
- 地域づくりに取り組むさまざまな主体のコーディネーター。

特に力を入れること

●地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのさまざまな主体による連携の仕組みづくり

地域の課題を解決し、地域の価値を創造するためには、市民だけでなく地域のさまざまな主体が力を発揮し連携しながら取り組んでいく必要がある。

これまでの地域づくりに取り組む人・団体に加え、地元企業や高校・大学との関係づくりに重点的に取り組む。

また、具体的な課題（例えば、高齢者の生活支援、空き地・空き家問題など）を設定し、さまざまな主体が参加して考え、実際に取り組む場をつくり、課題解決の取り組みモデルとして発信する。T S C に課題が持ち込まれ、T S C がコーディネート役となり、さまざまな主体が連携して解決する道筋をつくる。

●地域づくりに関わる人材育成

少子高齢化が進む中で、地域づくりの新たな担い手を育成し、次世代につないでいくことが重要である。

例えば、以下のような視点で人材育成に取り組んでいく。

○想いをかたちにしている人たちの姿をみせながら、潜在層（活動予備群）へのアプローチを行う

相談や事業に参加する層をみると、20～40 代の現役層、60 代の退職後の方が多く、相談や事業をきっかけに実際に活動を立ち上げている。「何かやりたい」という想いを抱えている層にしばった事業を行うことで、他の層への波及効果が期待できる。例えば、20～40 代であれば子育て世代でもあるので子ども世代に、60 代であればその下の年代である 50 代への波及効果をねらうことができる。

潜在層（活動予備群）へさらなるアプローチを行うために、情報発信の強化に取り組む必要がある。ホームページのリニューアルなど T S C 自体、また地域づくりを行う活動者の発信力を強化することで、潜在層（活動予備群）が地域づくり活動の情報にアクセスしやすい環境をつくる。

○文化交流拠点において T S C は市民の稽古場・実験の場として

図書館や文化センターで行われるさまざまなイベント等を体験し、「何かやってみたい」という気持ちになった市民が、想いをかたちにしチャレンジできる場が T S C である。T S C での取り組みをきっかけに図書館・文化センターや地域で活躍するという循環をつくっていく。

事業案

※別紙「平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ（案）」参照

（１）重点的な取り組み① 企業、高校・大学との関係構築

事業を実施していくにあたり、企業、高校・大学と連携できる下地づくりを行います。

（２）重点的な取り組み② 開館 10 周年記念事業

平成 30 年 6 月に開館 10 周年を迎えるにあたり、10 年をふりかえり、これからの地域づくりにつなげていく機会を設けます。

（３）課題解決に向けた取り組み

さまざまな主体が力を発揮し、地域課題解決の取り組みが行われるような筋道を、実践をもとにつくります。

（４）地域づくりに関わる人材の育成

少子高齢化が進む中で、地域づくりの担い手育成を行います。

（５）情報発信強化

上記事業の成果を地域に広めていくために、T S C と市民の情報発信強化に取り組めます。

Ⅱ-2 平成 29～31 年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ（案）

	現状と課題	平成 29 年度(2017)	平成 30 年度(2018)	平成 31 年度(2019)	3 年後の姿
重点的な 取り組み①	・下記事業を実施していく にあたり、企業、高校・大 学と連携できる下地づく りが必要。	●企業との関係構築 ○地元企業の CSR 調査 ●高校・大学との関係構築			・企業、高校・大学が地 域づくりの主体として活 躍している。
重点的な 取り組み② 開館 10 周年 記念事業	・多賀城のまちについて 集まって話したり考えたり する場が少ない。	○10 周年企画立案 ○イベントの実施	○イベントの内容を元に 10 周年記念誌をまとめる	○対話の場づくり	・多賀城のまちについ てさまざまな主体によ る対話の機会が増え ている。
課題解決に向けた 取り組み	・課題解決のためにはさ まざまな主体が力を発揮 する必要がある。(協働 から総働へ)	●課題や関係機関の把握 ●解決の仕組みを参加型で考え、 小さなチャレンジを生み出し、 課題解決のモデルとして発信。			・TSC に課題が持ち込 まれ、TSC がコーディ ネート役となり、さま ざまな主体が連携して解 決していく道筋ができ る。
地域づくりに 関わる 人材の育成	・少子高齢化が進む中 で、地域づくりの担い手 育成が必要である。 ・既活動者が活動を継続 していくために段階に応 じた支援が必要である。	●地域づくりの新たな担い手育成 ○講座等実施 ●既活動者の育成 ○伴走型相談対応をベースとする。			・市民活動・地域活動 への多様な関わり方を している人が増えてい る。 ・市民による課題解決 の取り組みが増えてい る。
情報発信強化	・上記の事業の成果を地 域に広めていくためには 情報発信強化は欠かさ ることができない。	●地域づくり活動の発信強化 ○ホームページのリニューアル ○情報誌の発行 ●市民の発信力強化 ○機能強化 ○講座等実施			・地域づくりに関する情 報によりアクセスしやす くなっている。 ・市民による情報発信 がより活発になっている。
社会の動き			・国民投票権が 18 歳に	・消費税率 10%に？ ・統一地方選挙 ・ラグビーワールドカップ	
多賀城市の動き		・H30 年春 東大寺展実施		・まち・ひと・しごと創生総合戦略最終年	